

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告（統一版）

1. けいよう
2. 北総育成園
3. ゆたか福祉苑
4. のまる
5. とらのこキッズ
6. さざんかキッズ
7. 笹川なずな工房
8. カメリアハウス
9. 魔法のランプ（居宅）
10. 魔法のランプ（相談）
11. DDホームズ
12. のまのまホームズ
13. グループホーム野の花

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔けいよう〕

(1) 高齢化への対応について

利用者さんの高齢化は進み、個別対応も年々増えています。数ヶ月前にはできていた事ができなくなったり、時間がかかるようになってしまいました。大きな怪我や事故に繋がってしまうケースは少ないですが、ちょっとした配慮不足から、事業所内での事故報告書及びヒヤリハット報告書を挙げる件数は残念ながら増えていきます。常日頃、報告書を基に情報を共有し、同じ事を繰り返さないように心掛けてはいるのですが、中には繰り返してしまう事もあります。その為、今年度の途中からケースにより班会議の議題に挙げ、班の中で情報を共有し、振り返りを行う事にして、報告書の書式も変更しました。

また、高齢化に伴い、昨年度に活動場所を広げる事を検討しましたが、金銭面や人手の問題等もあり直ぐには進める事ができませんでした。利用者さんや職員に不便を強いる形となってしまい申し訳なく思っています。しかし、職員間で話し合い部屋の配置換えをしたり、支援方法を見直す等して色々な工夫してくれました。利用者さんのためにと色々な知恵を絞り、創意工夫してくれる職員を改めて頼もしく思いました。

今年度も、毎月 2 回理学療法士によるストレッチ等を行いました。対象となる利用者さんは限られていますが、この日をとても楽しみにされているようです。理学療法士に指示を仰ぎながら、日々の活動の中でもストレッチ等を行い機能の維持・回復に努めています。年度途中からは、職員間で理学療法を改めて見直し、理学療法士と担当職員が中心となり計画書を作成しました。それを基に理学療法を行い、定期的に理学療法士と担当職員間で会議の場を設ける事で、日々の支援に効果的に繋がられるようにしています。

(2) スキルアップと働きやすい職場を目指して

昨今、人材確保が大きな課題となりますが、働きやすい職場を作り、定着率を上げることも大きな課題となっています。外部の研修には積極的に参加するようにし個々のスキルを上げる事、それだけではなく職員会議の日に研修報告を必ず行うようにし、参加していない職員にも伝え共有する事で職場全体のスキルアップを目指してきました。しかし、今年度は外部の研修にあまり参加できませんでした。来年度はもっと積極的に研修に参加してもらうようにする為、研修案内のコーナーを作り、今まで以上に呼びかけるようにしていきます。

内部研修としては、資料を参考にしながら管理者から主に障害福祉サービスの基本的な事について話をする機会を持ちました。また、サービス管理責任者と主任が中心になり、危険予知訓練を行いました。3~4人という少人数でグループワークをする事で、職員間のコミュニケーションを図り、先輩後輩に関係なく自分の想いをきちんと伝える・人の想いをきちんと聞く事も大切にしています。そうすることで、支援する中で何か困った事が起きた時に、日頃からコミュニケーションが取れ

ていれば、相談しやすい環境が自然と整い、それが働きやすい職場、定着率を上げる事に繋がればと思っています。

### (3) 地域とのつながり

今までと同様に、地域とのつながりを大切にしてきました。地区社協の会合には可能な限り出席させていただき、顔の見える関係作りを心掛けました。毎年参加させて頂いている「ふたわ福祉まつり」は、今年度は残念ながら都合が合わず、参加することができませんでした。毎年恒例のけいようの秋祭りは、今年度は天候に恵まれず雨となってしまう室内にて開催しましたが、会長さんが来賓として来てくださいました。また、近隣からも雨の中、多くの方に来て頂き大盛況に終わる事ができました。年々、近隣に新築の家が増えて、案内状を配るのにも悩んでしまう事もありますが、毎年楽しみにして来てくださる方もいらっしゃるので、今後も地域の方々にけいようを知っていただく良い機会と捉え、継続していきたいと思えます。

### (4) 事業所内広報紙「ひびき」の発行

今年度は、年4回定期的にご家族向けに「ひびき」を発行する事ができました。連絡帳や口頭では、なかなか伝えきれない日頃の活動や行事の様子等をご家族にお伝えしました。ご家族からは、「様子がわかって良い」「ひびきを見ながら子供とコミュニケーションが取れる」等と好評をいただきました。来年度も継続していきたいと思えます。

### (5) 実習生等の積極的な受け入れ

教員免許取得に係わる介護等体験の実習は29年度は26人を受け入れました。その他にも保育士資格取得のための実習、介護職員初任者研修に伴う実習を受け入れました。実習生が重なり多い日には3人という日もあり、現場としては厳しい面もありますが、実習生が入ってくれる事で、利用者さんもとても喜んでくれ充実した時間を過ごせますし、事業所側としても良い刺激となりますし、職員とは違った視点で見えてくれることもあるので勉強になる事もあります。また、福祉の現場を実際に見ていただき興味関心を持っていただく事で、人材不足の中、就職に繋がればと効果も期待しています。今後も可能な限り受け入れをしていきたいと思えます。

### (6) 厨房業務委託について

今年度より、厨房業務を(株)メフォスに業務委託しました。当初、色々な事を心配したが、綿密に打ち合わせを行い大きな混乱もなくスタートする事ができました。メニューも工夫を凝らしていただき、細やかな配慮もされ温かいものは温かく、冷たいものは冷たく美味しくいただいています。利用者さんからも好評で残飯が少なくなりました。また、月1回給食会議を開催し、情報の共有、確認等行っています。

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)\*小数1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理師・ 栄養士	その他(運転 士等)	計
29年度当初	常勤1	常勤1	常勤9 非常勤4 (1.7)	非常勤1 (0.1)	(株)× フォスに 委託	非常勤5 (2.6)	常勤11 非常勤10 (4.4)
男子			常勤5 非常勤1 (0.6)			非常勤4 (1.6)	常勤5 非常勤5 (2.2)
女子	常勤1	常勤1	常勤4 非常勤3 (1.1)	非常勤1 (0.1)		非常勤1 (1)	常勤6 非常勤5 (2.2)
計	1	1	13 (10.7)	1 (0.1)		5 (2.6)	21 (16.5)
年度中増減			常勤+1 非常勤+2				
男子				( )		( )	( )
女子			常勤+1 非常勤+2 (0.8)	( )		( )	( )
計			常勤+1 非常勤+2 (0.8)				
30年度当初	1	1	常勤9 非常勤6 (2.3)	非常勤1 (0.1)		非常勤5 (2.6)	常勤11 非常勤12 (5)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	児童発達支援		計
定員	40				40
29年度当初契約者数	48				48
年度内新規契約者数	0				0
年度内解約者数	2				2
年度末契約者数	46				46

## (2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続B	児童発達支援		計
年間延契約者数	11,708				11,708
年間開所日数	250				250
年間延利用者数	9,366				9,366
利用率	83.5%				83.5%

## (3) 利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	～ 20	21～30	31～40	41～50	51～	計
男子	0	9	4	13	3	29
女子	0	3	5	6	3	17
計	0	12	9	19	6	46
構成比率	0	26.1%	19.6%	41.3%	13%	100%

## (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

区分	2	3	4	5	6	計
男子		1	6	12	10	29
女子		2	7	3	5	17
計		3	13	15	15	46
構成比率	0	6.5%	28.3%	32.6%	32.6%	100%

## (5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	鎌ヶ谷市	その他		計
			県内	県外	
男子	27	1		1	29
女子	17				17
計	44	1		1	46
構成比率	95.6%	2.2%		2.2%	100%

## 3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他親族	その他	身寄り無	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	16	2	5	5		1		29
女子利用者	9		7	1				17
計	25	2	12	6				46
平均年齢	67.3	69.5	65.2					
最高年齢	90	85	90					

#### 4. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
法人合同研修	支援職	5月27日	10名	
		7月29日	10名	
		1月27日	10名	サービス向上委員会主催
新任研修	※今年度は該当者なし			
ゆたか・カメラア・けいよう職員交換研修	支援職	※他の事業所からは来て頂いたが、けいようからは諸事情により行く事ができなかった。		
内部研修	支援職	9月30日	11名	障害福祉サービスについて
		10月28日	13名	危険予知訓練
		2月24日	10名	北総育成園見学
	※他、土曜日の会議の際には、前期後期の振り返りや外部研修に参加した職員が資料を使い報告して情報の共有を図りました。			

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
県知的障害者福祉協会	応用行動分析の基礎を学ぶ研修会	6月2日	1	
船橋福祉相談協議会	FAS-net 研修会	6月13日	1	
日本てんかん協会	てんかん基礎講座	7月20・21日	1	
千葉県安全運転管理協会	安全運転管理者等法定講習	8月22日	2	
千葉県社会福祉事業団	認知症セミナー	10月5日	2	
千葉県	サービス管理責任者研修	11月1日	1	
千葉県社会福祉協議会	防災力強化研修	11月7日	1	
千葉県	サービス管理責任者研修	12月13・14日	1	
船橋福祉相談協議会	FAS-net 研修会	10月21日	1	
千葉県福祉人材センター	福祉・介護人材確保・定着支援セミナー	2月18・28日	1	

#### 5. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H29、11、1	近隣に散歩に出掛けた際、発作により転倒。	日頃から発作がある方なので、散歩に出る際の注意点等を見直し、周知徹底した。	有	

平成29年度

社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔北総育成園〕



## 平成 29 (2017) 年度事業を終えて (成果と課題)

(はじめに)

昭和 49 (1974) 年度に開園した当園は、平成 29 (2017) 年のこの年で 43 年目の坂道を上りました。その事業は 3 月 31 日で一区切り。引き続き、30 年度事業に多くのことは引き継がれていきます。次ページで、29 年度一年を振り返って大まかな出来事を書き出してみました。このことは、「各月のお知らせ」として保護者に概略報告されます。

「保護者と共に歩む」この言葉は昭和 49 年開園当初からの施設側の基本姿勢。両者の相互理解を促す機会として、保護者職員懇談会が年間行事に組入れられました。これらのことを通して施設側と保護者側は基本姿勢と相互信頼を整え、この人達を間に車の両輪として 43 年の年月を重ねてきました。29 年度事業では、4 月 29 日 (土) に第 76 回前期保護者職員懇談会。11 月 2 日 (木) は第 77 回後期保護者職員懇談会。都合 77 回ですから年 2 回の保護者職員懇談会は 38 年間継続されたこととなります。十年一昔の 40 年の歳月。利用者も歳を取り保護者はさらに十分歳をとりました。が、この保護者とのご縁はこれからも継続されることが求められます。

29 年度当園事業計画書のタイトルは、「改めてこの人達の '老い' に寄り添う」でした。それは毎日の仕事の中で、介護ケア・医療ケア・個別食提供・成年後見人等で一人ひとりのニーズに合わせて対応するということです。毎日が新たなケース会議の連続であったと言っても過言ではありません。支援職員のみならず、看護師・一日 3 回の食事提供 (個別食) 対応を引き受けてくれた栄養士と厨房職員・事務職員は支援費算出のためのコンピューター管理。更に洗濯や掃除、作業補助のパート職員等多くの支えがあって何とか遣り繰り返しながら一日一日を重ねました。それでもやむを得ず 3 名の利用者が北総から離れました。1 名は死亡、1 名は医療型介護療養病棟入院、1 名は在宅引き取り。当園の施設体系は現在①夜間の施設入所支援②日中の生活介護支援 (いずれも定員 75 名)。二つの施設の性格を一体的に担っています。それに昭和 49 年の開園入所施設の流れも引き受けています。平均年齢 55 歳。保護者の年齢はさらに 20~30 歳加算されます。

そのような実情を背景に、それでも '働くことは生きること' の日中活動を展開。8 つの作業班を維持し、一人ひとりの利用者全員が「役割と出番」を持って生きていくという仕組みも何とか稼働してきたということが出来ます。農耕班は玉ねぎと切干し大根、園芸班は朝顔とシクラメン、林産班は椎茸栽培、今年はその椎茸原木からセンウムが検出され折角の原木を廃棄するという憂き目にあいましたが、改めて新原木を購入。再挑戦を図っています。紙工芸班・陶芸班は干支人形。木工班・手芸介護班もそれぞれの作品を協力しあって頑張っています。ありのまま工芸班は散歩と瓢箪磨きに活路を見出しました。苦しい台所ですが、皆で老いを支えあい切り拓いて一年が過ぎました。

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
29年度当初							
男子	1	1	常勤15 非常勤5(3.3)	( )	( )	( )	常勤17 非常勤5(3.3)
女子		1	常勤18 非常勤15(7.9)	1 ( )	4 ( )	2 ( )	常勤26 非常勤15(7.9)
計	1	2	常33非20(11.2)	1	4	2	63
年度中増減							
男子			常勤1増 非常勤(1増)	( )	( )	( )	18 6(4.0)
女子			常勤3減(1産休) 非常勤3増1減産休	( )	( )	( )	23 17(9)
計			常31非23(13)				+1
29年度当初	1	2	常勤32 非常勤26(14.9)	1 ( )	4 ( )	2 ( )	42 26(14.9)
計	1	2	常勤32 非常勤26(14.9)	1	4	2	68

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1)利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続B	入所支援		計
定員	75名		75名		
29年度当初契約者数	74名		72名		
年度内新規契約者数	2名		2名		
年度内解約者数	3名		3名		
年度末契約者数	73名		71名		

(2)利用率

利用事業名	生活介護	就労継続B	入所支援		計
年間延契約者数	19,584名		25,853名		
年間開所日数	269		365		
年間延利用者数	19,384名		25,014名		
利用率	99%		97%		

## (3)利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子			1	2	2	6
女子		1	1	2	0	4
計		1	2	4	2	10
構成比率		1.4%	2.8%	5.5%	2.8%	13.7%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
14	5	4	7	4	45	51.5
2	2	4	3	9	28	54.1
16	7	8	10	13	73	52.5
21.9%	9.5%	10.9%	13.7%	17.8%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		3	12	30	45	5.6
女子		3	8	17	28	5.5
計		6	20	47	73	5.56
構成比率		9%	27%	64%	100%	

事業名(入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子		3	12	30	45	5.6
女子		3	8	15	26	5.46
計		6	20	45	71	5.55
構成比率		9%	28%	63%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	34	3	4	4		45
女子	12	2	5	5	4	28
計	46	5	9	9	4	73
	63%	6.9%	12.3%	12.3%	5.5%	100%

### 3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	15	4	10	9	6		1	45
女子利用者	4	3	3	12	3		1	26
計	19	6	14	21	9		2	71
平均年齢		75	76.6					
最高年齢		91	93					

### 4. 職員研修について

#### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新任研修会	4	29年4月1日	4	
虐待防止研修会	35	29年4月1日	35	
医務講習会	35	29年4月6日	35	誤嚥対策講習
保護者職員合同研修	30	29年7月20日	30	市原ふる里学舎
医務講習会	35	29年12月20日	35	嘔吐物処理法講習

#### イ、 外部団体等主催研修への参加 (\*詳細は事業報告書にて)

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県知的障害福祉協会	[虐待防止及び身体拘束廃止]応用行動分析の基礎	29年6月2日	3	
日本知的障害福祉協会	関東地区職員研修会	29年7月13日	7	
千葉知的障害者福祉協会	新任職員研修	29年7/24~25	3	
千葉県人材確保対策事業	介護リーダー研修	29年10月14日	7	
千葉県障害福祉課	強度行動障害支援者研修 支援者養成基礎研修	29年6/23,6/28	5	
		29年8/25,9/1	5	
		29年12/1,12/6	5	
千葉県障害福祉課	強度行動障害支援者養成研修[実践研修]	30年2/26~27	2	

5. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	平成 29 年 10 月 30 日	男性利用者の怪我 (転倒、後頭部の打 撲と裂傷) による通 院 4 針縫合する。	身体機能の低下がある 為通時見守りや介助が 必要 職員同士の連携 を大切に対応していく	船橋市 届ける	
2	平成 30 年 1 月 12 日	男性利用者の病死 (心臓発作)		船橋市 届ける	

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔 ゆたか福祉苑 〕

## 1. 平成29年度事業活動重点事項及び成果

### ○ご利用者様の状況

今年度は、新たに特別支援学校を卒業されたばかりの男性1名に利用契約いただき、4月からお迎えしました。また、6月には他市より船橋市へ転居されて来られた女性1名に重症心身障害児者多機能事業で利用契約いただき、週2回のご利用となりました。お二方ともに大変人懐こく魅力あふれるお人柄で、特に時間を要することなく早々に周囲と打ち解け、コンスタントにお通いいただいております。

一方9月に、12年間ご利用くださった男性ご利用者様が、他法人の事業所へ生活拠点を移されることに併せて、日中活動の場についても移られることとなりました。最終日にお別れ会を行うと、ご本人も号泣なされ、これまで楽しく過ごした他のご利用者様やスタッフとの思い出を分かち合うかのような様子が見られました。

10月には、40代後半の男性ご利用者様が、休日中に急激な体調トラブルで倒れられ、そのままお亡くなりになられてしまうということがありました。あまりに突然の訃報に大変ショックが大きく、事実を受けとめ切れないうままにお別れとなってしまうまいりました。心よりご冥福をお祈りいたします。

年度末での契約人数は、生活介護80名、重症心身障害児者多機能10名となっています。

### ○スタッフの状況

支援職では、男性職員1名が家庭の都合による転居を余儀なくされ、8月末での退職となりました。11月に女性スタッフ1名が入職しました。

人員に限られる中で、各班ともにスタッフ同士が協力しながら、ご利用者様の支援にあたってきました。個別的な対応が必要な状況も増えてきており、また突発的な事柄にもスムーズに柔軟に応じられるよう、事前に各々の動きについてより細やかに確認し合い、あるいは迅速な情報伝達につとめてまいりました。サービス管理者、各班リーダーおよび活動チーフを中心に他班の状況も確認し合い、班の枠にとらわれず必要なところへ互いにカバーに入るといった動きを、年間通じて実践することができました。

支援職以外では、5月に送迎バス運転手1名、9月にグループホーム送迎車運転手1名が入職。夕方の館内清掃員1名が8月で退職となっています。

### ○行事について

昨年度に続き2回目の『ゆたか秋まつり』を10月14日(土)に実施しました。スタッフの出し物やご利用者様中心のダンスチームなどで、小規模ながらもアットホームな雰囲気を作られ、参加者の方々に楽しんで頂けたのではないかと思います。

ご利用者様それぞれの好みやペースに寄り添われるよう、少人数での外出行事を年間通じて行ってきました。個別に行先希望のアンケートを取り、水族館やアスレチック、ゆめ牧場、電車外出、カラオケ等に出掛け、スタッフ共々楽しみました。

その他、各班ごとに外出やお食事を企画し実施してきました。

#### ○個別面談の実施

数年来、ご希望者および必要時に実施してきたご家族との個別面談を、今年度はおよそ1年かけ、全員対象で実施させていただきました。

ご家族の方にはご足労、ご負担をおかけしましたが、ご家庭での状況を教えて頂くことで、新たな発見やより良い支援についてのヒントを得ることができ、またご家庭でのご苦労や工夫を知ることで、スタッフにとっての学びの機会となりました。

#### ○大規模改修工事を終えて

当初の計画では昨年度内（29年3月）には工事が完了する予定でしたが、追加工事や是正工事の影響で、まだ工事が続いている状況での29年度スタートとなりました。改装した新館へ移した事務室を、また一定期間元の事務室に戻したり、苑庭のプレハブや仮設トイレの解体工事、撤去作業がありました。それでも、ご利用者様の活動スペースについては、ほぼ全面的に使用可能な状態ではありましたので、リニューアルした活動室にて各班スタートすることができました。また、エレベーターや各2ブースずつ増やした男女トイレ、2F新設シャワー室など、新たに加わった機能も有効に使い、ご利用者様にとっての利便性と快適性が向上しています。そして、いよいよ新事務室の是正工事が終わり、旧事務室もご利用者様の活動スペースとなりました。

#### ○班編成の再考

新たな機能や広がった活動スペースについて、更に今後のご利用者様の状況変化等を見据えながらどのように活用していくのか、スタッフ間で検討、協議してきました。その中から、より細やかに配慮された支援やより良い活動提供を目指すため、活動班体制の再構築に議論が及び、平成30年度からは現行の4班体制から5班体制に再編することとし、それに向けて準備を進めてまいりました。ご利用者様お一人お一人のペースや得意なことを改めて見つめ直し、過ごし方や活動内容をイメージしながら新班体制作りを行いました。



1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士等)	計
29年度当初					メリックス㈱委託		
男子	1	1.5	12.5 (3)	( )	( )	0.3 (1)	15.3 (4)
女子			18.3 (5)	1 ( )	( )	2 (1)	21.3 (6)
計	1	1.5	30.8 (8)	1		2.3 (2)	36.6 (10)
年度中増減							
男子			-2 (1)	( )	( )	0.7 (2)	-1.3
女子			0.5 (1)	( )	( )	( )	0.5
計	0	0	-1.5	0		0.7	-0.8
30年度当初	1 ( )	1.5	29.3 (9)	1 ( )	メリックス㈱委託 ( )	3.0 (4)	35.8 (13)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	重心多機能			計
定員	75	5			80
29年度当初契約者数	82	9			91
年度内新規契約者数	0	1			1
年度内解約者数	2	0			2
年度末契約者数	80	10			90

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	重心多機能			
年間延契約者数	20,253	2,459			
年間開所日数	250	250			
年間延利用者数	17,791	720			
定員に対する利用率	94.9%	57.6%			

(3) 利用者の年齢区分(平成30年4月1日時点)

生活介護(75名定員)

年齢区分	～19	20～29	30～39	40～49	50～	計
男子	1	7	10	32	4	54
女子	0	2	4	17	3	26
計	1	9	14	49	7	80
構成比率	1.2%	11.3%	17.5%	61.2%	8.8%	100%

重心多機能(放課後デイ&生活介護)

年齢区分	放課後デイ	～19	20～29	30～39	40～	計
男子	1(16歳)	0	1	2	1	5
女子	1(15歳)	0	2	1	1	5
計	2	0	3	3	2	10

(4) 利用者の障害支援区分(平成30年4月1日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6		
男子	0	16	20	18		54
女子	1	4	7	14		26
計	1	20	27	32		80
構成比率	1.2%	25%	33.8%	40%		100%

事業名(重症心身障害児者多機能)

区分	6	未判定(児童)				
男子	4	1				
女子	4	1				
計	8	2				

(5) 援護市町村区分(平成30年4月1日時点)

市町村区分	船橋市	千葉市・習志野市・四街道市・八千代市	その他		計
			県内	県外	
男子	56	3			59
女子	30	1			31
計	86	4			90
構成比率	95.6%	4.4%			100%

### 3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	40	3	11	3	1	1		59
女子利用者	17	1	10	3				31
計	56	5	22	6	1	1		91

### 4. 職員研修について

#### ア、 法人および事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	内容
新任職員研修	新任職員	5/24・7/26 9/27	グループディスカッション および講話。
法人内部研修	法人職員	5/27・7/29 1/27	合同研修委員会主催で実施。 サービス向上委員会主催
苑内自主研修	支援職員	・テーマごとに随時グループ学習 ・自主希望にて展示会参加,他施設訪問見学	学びたいテーマごとにグループを組み、年間通じて学習した内容を1月の職員会議日に発表した。
防災講習会	支援職員		防火管理者による自主講習会。救出救護の演習。

#### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
東京都障害者通所活動施設職員研修会	「支援力を高める～当事者と支援者の関係性を再考する～」	6/1	1名	
NPO 法人生活サポート千葉	強度行動障害支援者研修(基礎研修)	6/23・29	1名	
日本知的障害者福祉協会	関東地区知的障害福祉職員研究大会	7/13・14	1名	
心身障害児総合医療療育センター	摂食・嚥下指導(基礎・実習)講習会	8/8・9	1名	
千葉県社会福祉協議会	障害者虐待防止・権利擁護専門研修	11/17	1名	
日本知的障害者福祉協会	日中活動支援部会全国大会	12/12・13	2名	
千葉県知的障害者福祉協会	支援スタッフ部会東葛ブロック合同研修会	12/20	1名	
東京都障害者通所活動施設職員研修会	『個別支援計画作りを再考する～「これからの生活」を実現するには～』	1/29	1名	
千葉県社会福祉協議会	新人職員福祉入門講座	2/6	1名	
千葉県社会福祉協議会	新人職員の接遇マナー研修	2/27	1名	

5.事故の発生について \*行政報告事項

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H29.5.22	事業所の周辺を散歩中、当事者様が路面（アスファルト）の窪みに躓かれ足をとられてしまう。ご自身で体勢を立て直そうとするも逆に受け身が取れないまま前のめりに転倒し、顔面と腕を路面に打ちつけてしまった。鼻の打撲および右肩を脱臼。完治まで3週間バンドと三角巾で肩の固定が必要となった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩時のメンバーやコースに無理がなく安心や安全が保たれるよう配慮していく。</li> <li>常時足元への配慮を要する方に限らず、常に危機意識を持ち路面状況など周囲の環境に注意を向けて支援する。</li> </ul>	有	
2	H29.6.1	周囲の方との関わりの中で思い違いをきっかけに立腹されたご利用者（B様）に対し、スタッフが間に入りなだめていた。その様子を当事者様は心配して見ていらっしゃり、少し落ち着いたところで当事者様がB様に声を掛けに行ったが、再び気分が高揚されたB様に叱責に右脚の脛を噛まれてしまった。病院にて消毒の処置と抗生剤（化膿止め）の処方を受ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>関わり合いの様子に気を配り、なるべく思い違いや誤解が起きる前に適切な声掛けを行う。</li> <li>他のご利用者様に影響を及ぼさないよう、慎重な対応を行う。</li> <li>ご利用者様の気分の浮沈を良く見極める。</li> </ul>	有	

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔 のまる 〕

## 平成 29 年度事業活動重点及び成果

### (1) 利用者生活支援への振り返りと権利擁護

障害のある方への権利擁護意識の向上を目指しました。

入所されている方の高齢化が年々進み、基本的生活動作・身体昨日の低下により、昨年にも増して転倒など怪我への危険性も高くなっています。職員の介護技術向上と併せ、ハード面にも工夫がより求められます。

行動障害のある方への支援について職員のスキルアップとして、平成 29 年度は県の行動障害支援者養成研修へ 6 名が研修を受け、支援の質の向上に努めました。利用者個々の特性を把握し、より生活のしやすい環境の提供を行なっています。

### (2) 医療との連携

てんかんの持病がある方において、5 月に重積発作があり、救急搬送を要請するケースがありました。今回、初期対応も十分になされましたが、利用者への対応について職員間で改めて確認し、どのタイミングで救急車を呼ぶのか確認しています。

利用者の体調の変化や怪我には看護師が中心となって対応できる体制を組んできました。近隣の病院や病院付属の医療連携室とも連携を図り、医療機関との連携もさらに広められるよう努力を重ねて行きたいと考えます。

利用者の高齢化に伴い、疾病や怪我の増加による通院の機会は増える傾向にあります。今後、医療との連携はこれまで以上に必要とされる部分であり、看護師のほか、生活支援員においても医療面のスキルアップも必要事項と考え、29 年度は外部団体主催の医療に関する研修を受講する機会も加えました。

### (3) 大規模改修の準備

平成 30 年度に行われる「のまる大規模改修工事」に向けて、設計会社との打ち合わせを継続的に行ってきました。また、職員間では改修内容の要望や工事期間中の利用者支援体制についての打ち合わせを実施。利用者やご家族に対しても説明会や内覧会の機会を設定してまいりました。利用者の安全と安心を優先し、改修工事に臨んでまいります。

### (4) 人材の確保

人材確保は深刻で、ハローワークや民間求人会社とも連携し、幅広く募集をしました。特に男性職員の確保は困難であります。(29 年度中は 1 名の採用でした。) 大学、専門学校にも呼びかけていますが、今後もますます厳しさは増すものと考えます。

大学との連携を図るべく、保育実習生や教員免許に伴う介護等体験の学生を受け入れています。ここを連携窓口として活用し、人材の確保に今後もつなげていきます。

#### (5) 短期入所

数年来の傾向として、緊急の短期入所の依頼が増えています。法人内の利用者の受け入れにあたっては各事業所の職員派遣も得ながら進めています。「のまる大規模改修」の期間中は居室数が不足するため、短期入所受け入れが困難となりますが、改修工事の進展に応じて、運営を再開してまいります。

1. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数1位四捨五入

	管理者	サピ管等	支援員・保 育士等	看護師	調理員・栄養 士	その他(運転 士等)	計
29年度当初	1	2	32 (29.6)	2 (0.9)	0	1	38 (30.5)
男子	1	2	15 (14.2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	18 (14.2)
女子	0	0	17 (15.4)	2 (0.9)	0 (0)	1 (0)	20 (15.4)
計	1	1	37 (30.5)	2 (1.3)	0	0	41 (31.8)
年度中増減	0	0	-2	0	0	0	-2
男子	0	0	+1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	+1 (1)
女子	0	0	+3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	+3 (2)
計	0	0	+4 (3)	0	0	0	+4 (3)
30年度当初	1	2	34 (31.9)	2 (0.9)	0 (0)	1 (1)	40 (32.8)
計	1	2	35 (30.5)	2 (0.9)	0 (0)	0 (0)	39 (31.4)

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

2. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援		計
定員	40名	7名	35名		
29年度当初契約者数	40名	11名	31名		
年度内新規契約者数	名	3名	1名		
年度内解約者数	2名	0名	1名		
年度末契約者数	35名	14名	31名		



(2) 利用率

利用事業名	生活介護	短期入所	入所支援	計
年間延契約者数	425名(422名)	134名(139名)	334(397名)	
年間開所日数	263日(262日)	365日	365日	
年間延利用者数	6418(8024名)	2160(2118名)	10642(11332名)	
利用率	61%(87%)	19%(50%)	92%(98.1%)	

※ ( ) は 28 年度の数字

(3) 利用者の年齢(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	20~29	30~39	40~49	50~59	60歳以上
男子	0	3	9	8	4	1
女子	0	1	2	2	1	0
計	0	7	8	12	5	1
構成比率	0%	21%	24%	37%	15%	3%

				65歳以上	計	平均年齢
				0	25	40.8
				0	6	46
				0	31	41.9
				0%	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	5	6	20	31	5.5
女子	0	1	3	5	9	5.4
計	0	6	9	25	40	
構成比率	0%	15%	22%	63%	100%	

事業名(施設入所支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	3	6	16	25	5.5
女子	0	1	3	2	6	5.2
計	0	4	9	18	31	5.3
構成比率	0%	13%	29%	58%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子	23	3	0	0	0	26
女子	6	1	0	0	0	7
計	29	4	0	0	0	33
	87%	13%	0	0	0	100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	17	2	2	3	0	0	1	25
女子利用者	3	1	0	2	0	0	0	6
計	20	3	2	5	0	0	1	31
平均年齢								
最高年齢								

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
食について話し合う	支援職	H29/5/27	5名	
コミュニケーションマナー	支援職	H29/7/29	6名	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
千葉県社会福祉協議会	新人・信任職員のための接遇マナー	H29/4/21	1	
//	新人職員 福祉入門講座	H29/4/24	1	
千葉県知的障害者福祉協会	応用行動分析の基礎を学ぶ研修	H29/6/2	1	
千葉県社会福祉協議会	キャリアデザイン研修	H29/6/14,7/20,7/21	1	
//	障害者(児)福祉施設新任職員研修	H29/6/22	1	
生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修	H29/6/22,6/26	2	
障害児・者 相談支援事業 全国連絡協議会	総会・コーディネーター研修会	H29/6/29,6/30	1	
千葉県社会福祉協議会	傾聴スキル研修	H29/6/30	1	

国立のぞみの園	福祉セミナー 発達障害児・者の支援のために	H29/6/30	1	
生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修	H29/8/25,8/29	2	
千葉県社会福祉協議会	権利擁護研修	H29/9/1	1	
桐友学園	きりともセミナー	H29/9/13	2	
千葉県社会福祉事業団	認知症セミナー	H29/10/5	2	
千葉県社会福祉協議会	相談支援技術研修	H29/10/13	1	
日本知的障害者福祉協会	相談支援・就業支援セミナー	H29/10/16,10/17	1	
千葉県社会福祉協議会	認知症の理解とケア研修	H29/10/26	1	
//	腰痛予防研修	H29/11/2	1	
さざんか会 後援会	子育て支援セミナー	H29/11/9	1	
//	子育て支援セミナー	H29/11/14	1	
国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター、厚生労働省	医療・福祉従事者のための発達障害臨床セミナー	H29/11/12	1	
千葉県社会福祉協議会	メンタルヘルスについて	H29/11/17	1	
千葉県労働基準協会連合会	衛生推進者養成講習	H29/11/24	1	
損害保険ジャパン日本興亜(株)	福祉施設のための苦情対応セミナー	H29/11/28	1	
国立のぞみの園	医療福祉セミナー 大人の発達障害	H29/11/29	1	
生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修	H29/12/1,12/5	2	
千葉県知的障害者福祉協会	施設見学・「魅力ある職場作りについて」	H29/12/20	2	
公益財団法人鉄道弘済会	行動障害に対する多角的視点からのアプローチ	H30/2/2	1	
//	これからの社会、これからの障害者支援	H30/2/3	1	
千葉県社会福祉協議会	口腔ケア研修	H30/2/15	1	
千葉県社会福祉協議会	新人職員 福祉入門講座	H30/2/6	1	
国立のぞみの園	知的障害者の健やかな老後のために	H30/2/7	1	
千葉県発達障害者支援センター	平成 29 年度 強度行動障害のある方の支援者に対する研修会	H29/5/9,5/13,5/24,5/31,6/7,6/12,6/25,7/5,7/9,7/10,7/11,7/12,7/19,8/4,8/29,9/7,9/22,10/3,10/12,10/26,11/2,11/16,11/22,12/7,12/16,12/21, H30/1/18,2/15,3/3	1	

5. 事故等の発生について \*ヒヤリハットを除く

発生日	内 容	今後の対応	行政への 届け出	備考
H29/4/8	怪我(左手中指第一関節骨折)	行動観察の強化	○	
H29/5/5	疾病(てんかん重責発作による救急搬送)	発作確認時における初期対応の確認	○	
H29/5/11	怪我(転倒による、顎の裂傷)	移動場面、付き添い支援の見直し	○	
H29/9/15	怪我(顔面の火傷)	見守り支援の見直し	○	
H29/11/3	怪我(転倒による右耳の裂傷)	移動場面、付き添い支援の見直し	○	
H29/12/26	怪我(転倒による左脇の裂傷)	生活環境の見直し	○	

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名 [とらのこキッズ]

## 1. 平成 29 年度事業活動重点事項及び成果

- 将来の社会への自立に向けて、児童一人ひとりの気持ちを尊重した上で「出来た」ことを褒めながら、自信と物事に取り組む意欲を引き出し、人と関わることの喜びや楽しさを感じる「心」を育む為にチームで丁寧に関わってきた。  
また、保護者の悩みにも応じていくことで、子育てに奮闘している日常が少しでも安心して過ごせるものになるよう支援してきた。職員も児童の一人ひとりの成長を保護者と共に喜び合う事が出来たことで、たくさんのことを吸収し、学び、自身の糧となったと思う。  
年度始めに職員間の「報・連・相」を強化することを周知し、チームとして協力し合いながら保護者との信頼関係を築くことも目標にし、全員が取り組んできた。その成果から大きな事故もなく無事に過ごすことができた一年となった。
- 開園から 11 年を経過し、ハード面に少し傷みが生じてきた。安全な環境で療育を提供していく為に、日々の点検を強化してきた。

### ① 児童の受け入れと卒園児の状況

- 平成 29 年度は、新入園児 14 名を加えて 36 名でスタートした。年度途中、3 名の転園に伴い新入園児 2 名を受け入れた。応募人数が多い為、今年度も年中児の選考面接を強いられた。  
14 名の卒園児の就学先は、市立船橋特別支援学校 6 名 地域の支援学級 7 名 普通級 1 名。

### ② ご家族支援

- 就学先の決定については、総合教育センターに直接言えない部分を仲介する等の対応をすることで保護者の不安に寄り添えた。
- 登園開始までの事前説明や確認作業が不十分だった為、園に対し不安や不信感が生じてしまったケースがあった。このことについては、事前情報の確認と保護者への説明事項受け入れの流れの中で園全体の仕組みとして捉えていくように改善が必要である。
- 転園児を対象にした「保育所等訪問支援」のご案内と準備をする。制度の説明については、事前に十分に行うことで保護者が安心して利用して頂けるようにした。
- その他、児童を取り巻くご家庭の状況により育児の中心であるご両親に限らず、祖父母の立場での相談にも応じている。

### ③ 業務委託

- 送迎業務：H30 年 1 月より、(株)日本総合サービスと送迎業務の委託契約を開始する。  
毎年の新入園児の送迎ルートの設定や見直しをスムーズに進められるメリット等、業務の安定化を検討しての切り替えであったが、乗務員の急な欠勤に対応できず送迎ができないという事態が生じ、保護者にご迷惑をお掛けすることもあった。
- 給食業務：業務委託 2 年目となった給食提供については、(株)メフォスと給食係りを中心に定例の給食会議を開催し、児童の摂食状態等を考慮した献立を提供する事ができた。また、アレルギー食についても(株)メフォスの協力の下、安全に提供するための流れを確立することができた。

#### ④ 研修の充実と人材確保

○療育専門の研修は個別に新人職員を中心に受講し、また「摂食指導」の研修として「日本歯科大学附属病院」の医師を講師に招き講演会を開催する等、職員全員のスキルアップに努めた。

特に今年度は、食物アレルギーの研修としてアナフィラキシーショックに対する緊急処置として使用する「エピペン」の講習を「千葉愛友会記念病院」の医師を講師に招き「さざんかキッズ」と合同で児童施設全体の研修として開催した。また、法人内全体研修にも積極的に参加してきた。

○人材確保については、新卒の常勤職員 2 名と非常勤保育士 1 名を確保してスタートした。年度途中、非常勤職員 1 名の退職となったが日常の体制に響くことなく送ることが出来た。

#### ⑤ 防災減災活動と防犯について

○法人内防災会議を通じて課題を検討。事業所として整えなければならない事を考える機会を得た。災害に対する訓練は、恒例化した訓練(毎月の避難訓練・災害伝言ダイヤル等)を実施。30 年度に向けて KYT(危険予知トレーニング)を活かして取り組んでいく。

- ・防犯カメラの導入：市からの補助金を受けて園敷地内 4 箇所に防犯カメラを設置。
- ・防犯ブザーの携帯：園外活動(散歩等)に出る際にはクラス毎に携帯。

#### ⑥ 労働環境の整備について

○休憩時間の確保に努めると共に業務内容の見直しを図った。

- ・警備システムの変更：警備開始時間の設定を導入したことで、退勤時間までの作業内容の効率化を意識して業務に取り組むようになった。

○労働環境と働き方の見直しについては、30 年度も引き続き意識していきたい。スキルアップ為の研修の充実と同様に考えていかなければならない課題と考える。

#### ⑦ その他の状況及び成果

##### ○食物アレルギーへの対応

厚生労働省のガイドラインと船橋市の公立保育所の資料を参考に、さざんか会の児童の受け入れの仕組みを確立。給食提供する事前段階に於いて、委託業者の協力を得ながら説明会や面接等、資料を基に数度に渡り保護者と確認した上で安全・安心を最優先にした完全除去食を基本とすることを示してきた。保護者も加えての何層にも渡る提供までのチェック機能を構築した事は、今後の受け入れに於いて大きな成果と考える。

職員全体での研修も実施し、食物アレルギーについての知識を深めることができた。

##### ○健康面について

今年度後半に入り、職員へのインフルエンザの予防接種など対策はしていたが、インフルエンザ A 型・B 型共に流行し、児童やそのご家族の罹患による欠席が多くみられた。職員も数名罹患するが休園措置とまでは至らずに済んだ。園内感染防止対策として手洗いうがいや換気・加湿の強化、噴霧薬の購入等を講じたが効果は薄かった。この影響により 12 月頃から 2 月上旬にかけての出席率の低下と行事の縮小を招いた。

2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)※小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員 世話人 保育士等	看護師	調理員	その他 (運転手・専門職等)	計
29年度 当初	常勤 1	常勤 1	常勤 12 非常勤 5 (3.2)	(兼務)	業務 委託	常勤 1 非常勤 5 (1.8)	常勤 15 非常勤 10 25 (20.0)
男子		0	0	0	(委託)	非常勤 1 (0.5)	非常勤 1 1 (0.5)
女子	常勤 1	常勤 1	常勤 12 非常勤 5 (3.2)	(兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 4 (1.3)	常勤 15 非常勤 9 24 (19.5)
計	常勤 1	常勤 1	常勤 12 非常勤 5 (3.2)	(兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 5 (1.8)	25 (20.0)
年度中 増減	0	0	非常勤-1 (0.5)	0	0	非常勤-2 (0.5)	非常勤-3 (1.5)
男子		0	0	0	0	非常勤-1 (0.5)	非常勤-1 (0.5)
女子		0	非常勤-1 (0.5)	0	0	非常勤-1 (0.5)	非常勤-2 (1.0)
計	0	0	非常勤-1 (0.5)	0	0	非常勤-2 (1.0)	非常勤-3 (1.5)
30年度 当初	1	1	常勤 12 非常勤 5 (2.9)	(兼務)	(委託)	常勤 1 非常勤 3 (0.7)	常勤 15 非常勤 8 23 (18.6)

※H30.1月より、運転業務委託に変更(非常勤2名減)

3. 施設等利用者の状況

(1) 利用契約者(平成30年3月31日現在)

利用事業名	保育所等 訪問支援	障害児相談支援	児童発達支援	計
定員	0	—	30	30
29年度当初契約者数	0	19	36	55
年度内新規契約者数	0	51	2	53
年度内解約者数	0	0	3	3
年度末契約者数	0	70	35	105

※保育所等訪問支援：29年度実施なし



(2) 利用率 ※児童発達支援のみ

利用事業名		児童発達支援	計
年間延契約者数	—	421	421
年間開所日数	—	250	250
年間延利用者数	—	7,585	7,585
利用率	—	86.5%	86.5%

(3) 利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点) ※児童発達支援のみ

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	25	0	0	0	0	0
女子	10	0	0	0	0	0
計	35	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	25	5.28
0	0	0	0	0	10	5.0
0	0	0	0	0	35	
0	0	0	0	0	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率					100%	

## (5) 援護市町村区分

市町村 区分	船橋市	市川市・習志 野市・鎌ヶ谷 市・八千代市	東庄町・銚子 市・香取市・旭 市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	35	0	0	0	0	35
						100%

## 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の 親族	その他	身寄り なし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	24	0	1	0	0	0	0	25
女子利用者	8	1	1	0	0	0	0	10
計	32	1	2	0	0	0	0	36
平均年齢	41.4 歳	42 歳	28 歳					
最高年齢	52 歳							

## 5. 職員研修について

## ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
新人研修	支援職員	H29・4・5	新人職員一同	
食物アレルギー児への対応・エピペンの使用方法	支援職員	H29・4・19	職員一同	
法人合同研修	支援職員	H29・5・27	職員一同	
食べる機能の発達と障害	支援職員	H29・7・12	職員一同	さざんかキッズ合同
食具の使い方、選び方	支援職員	H29・7・13	職員一同	
食物アレルギー研修会 エピペン講習	支援職員	H29・8・9	職員一同	さざんかキッズ合同
体幹力を育てる関わり方	支援職員	H29・11・30	職員一同	
摂食嚥下障害児への食事 介助方法と間接訓練	支援職員	H30・1・24	職員一同	さざんかキッズ合同
法人合同研修	支援職員	H30・1・27	職員一同	
感覚と運動を育む遊びと アイデア	支援職員	H30・2・2	職員一同	

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加人数	備考
船橋市 子育て支援部	摂食嚥下機能障害の指導	H29・6・15、29	2名	
発達協会	知的障害・発達障害のある子への 保育・療育	H29・7・28~29	1名	
発達協会	不器用さへの理解と指導	H29・8・3~4	1名	
発達協会	基礎から学ぶ発達障害・知的障害	H29・8・5~6	1名	
千葉県健康福祉部 障害福祉事業課	千葉県相談支援従事者初任者研修	H29・8・17~18	1名	
発達協会	衝動的な行動への理解と対応	H29・10・29	1名	
発達協会	遊びを通して発達を促す	H29・11・11	1名	
発達協会	幼児期に育てたい集団参加の力	H29・11・12	1名	
発達協会	発達障害・知的障害のある子の 感覚への対応	H29・11・12	1名	

6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への 届け出	備考
1	H29・6・16	利用児と職員が手を繋いで 散歩中、地面の排水溝を気 にして突然しゃがみこむ。 その際に繋いでいた手の右 肘が抜ける。	利用児のあらゆる行動 を予測し、細心の注意 を払う。	あり	
2	H29・12・22	園庭で追いかけっこをして いた利用児が、園庭隅にあ る倉庫の裏の生垣に顔面か ら突っ込む形で転倒する。 顔面や脛にすり傷ができ、 砂や木くず等が目に入る。	倉庫の裏が死角になっ ている為、職員配置や 遊びの提供方法など環 境設定に配慮する。	あり	
3	H30・2・26	室内活動にて職員が利用児 と手を繋ぎ誘導中、保育士 の誘導方向と違う方向に移 動しようとし、その際に左 肘が抜ける。	利用児の行動を予測 し、細心の注意を払う と共に、突発的に手を 引く事がないよう、誘 導の仕方に配慮する。	あり	

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

児童発達支援センター

事業所名〔さざんかキッズ〕

## 1. 平成 29 年度事業活動重点事項及び成果

### ① 療育の充実

施設長、児童発達支援管理責任者が新しくなりしい体制となった中、さざんかキッズも3年目を迎え、より充実した療育を提供できるよう1年間取り組んできました。職員は皆それぞれの分野で、園児の安全を守り、安心して園生活を送れるよう日々努力をしてきた結果、保護者との信頼関係も育むことができました。その一方、6月散歩先での園児が一時行方不明になった事があり、より一層の職員間の連携や全体周知などが再認識される一件となりました。

### ② 行事の再考

3年目を迎え、一つ一つの園児の行事について何とかこなしてきてはいたが、ここで今一度、目的やねらい、準備のための時間配分など、考え直す必要性を感じられる一年でありました。その中で、親子遠足に80名の園児を1日で行ける所はないかと探し、幕張イオンの「カンドゥ」に行くことができました。商業施設という事もあり、カンドゥ側のルールもありましたが、何度も打ち合わせや下見を経て、たくさんのご協力を得ながら無事全員で親子遠足に行くことができました。

### ③ 新規児童の受け入れ

29年度も知的クラスでは年少児の受け入れができませんでした。この状況はここ数年続いている事なのですが、なかなか改善せず船橋市とも協議の必要があるものと考えます。5月に年中児2名の入園ができ、年中児については申し込みのあった方は全員入園できました。30年度新入園児の募集後、肢体不自由児年中の2名が30年4月を待たずに2月からの入園を打診したところ、少しでも早く慣れたいとの意思を示してくださり2月からの入園となりました。

### ④ 関係機関との連携と家族支援

就学先決定では保護者の皆様が揺れ動くところで、就学先、教育センターなどのご協力いただき、連携やこまめな対応をさせて頂きました。近年支援学校だけでなく、支援学級でも就学前の引き継ぎを求めてくる学校が増えました。園側の諸君のそれらへの適切な対応が求められました。

また、施設長が千葉県立船橋特別支援学校の「開かれた学校委員会」の委員になり、集会などに参加させて頂いたことで、肢体不自由児が主に通学する県立船橋支援学校とは十分に連携を取る事ができました。

⑤ 専門職との連携

理学療法士が月1回のペースで年10回知的クラスの園児の姿勢や、動きを見る事を始めました。初めは椅子の調整からでしたが、後半は専門職目線での遊びの提供やクラス担任へのポイントを突いたフィードバックができました。

一方、言語、心理については保護者同伴の意味が保護者の皆様に伝わっておらず、年度途中の園評価でも低い数値が出てしまいました。園側からの周知の仕方を考慮していく必要を感じました。

⑥ 摂食指導の充実

肢体不自由児の摂食指導では、開園以来専門の先生とつながる事ができず、困難を極めていたが、今年度、日本歯科大学の児玉先生が年4回の摂食指導と2回の職員研修を行って頂くことで繋がりができ、肢体不自由児クラスのみではなく、知的クラスの園児についても観察と指導を頂くことができました。保護者へのフォローも的確に行なって頂き、摂食指導の充実が一步前へ進みました。児玉先生には、30年度も継続してご指導いただく事が決定しています。

⑦ 防災・減災・防犯対策

防災・減災については、毎月の避難訓練等、職員の周知と園児の様子を見ながら進めてまいりました。KYT（危険予知トレーニング）についても年5回取り組み、職員の共通理解を構築してきました。

また、法人の防災会議とリンクしながら、防災備品の見直しと補充に努め、まだまだ十分とは言えませんが、少しずつ整えてきています。

防犯面では船橋市の補助を頂き、防犯カメラを園庭2か所 玄関周りに2か所、設置することができました。

毎月の避難訓練の中に初めて「不審者対応訓練」を取り入れました。十分とは言えませんが、職員間の意識づけにはなったかと思えます。

## 2. 職員体制と人材確保(カッコ内は常勤換算数)\*小数点2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員 世話人 保育士等	看護師	栄養士 調理員	その他 (運転士等)	計
30年度 当初	1	1	36	2	1 (給食委託)	8 (運転委託)	49
男性	0	0	0	0	0	1 (1) (運転委託)	1 (1)
女性	1	1	36 (29.9)	2 (0.6)	1 (1) (給食委託)	7 (4.6)	48 (36.1)
計	1	1	36 (29.9)	2 (0.6)	1 (1) (給食委託)	8 (5.6) (運転委託)	49 (37.1)
年度中 増減	0	0	0	0	0	0	0
男性	0	0	0	0	0	0	0
女性	0	0	-1 (0.3)	0	0	0	±1
計	0	0	-1 (0.3)	0	0	0	±1
30年度 終了時	1	1	35 (29.6)	2 (0.6)	1 (1)	8 (5.6)	48(36.8)

※ その他 … 事務・理学療法士・作業療法士・音楽・心理士・支援職員等を含めます。

※ 保育士等 … 産休職員2名を含んでいます。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
定員	0	80	80
29年度当初契約者数	0	74	74
年度内新規契約者数	0	4	4
年度内解約者数	0	1	1
年度末契約者数	0	77	77

## (2) 利用率

利用事業名	保育所等訪問支援	児童発達支援	計
年間延契約者数		18,993	18,993
年間開所日数	—	251	251
年間延利用者数	—	16,117	16,117
利用率	—	84.9%	84.9%

※児童発達支援の実利用者数による計算

## (3) 利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子	54	0	0	0	0	0
女子	23	0	0	0	0	0
計	77	0	0	0	0	0
構成比率	100%	0	0	0	0	0

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	0	0	0	54	5.4
0	0	0	0	0	23	5.6
0	0	0	0	0	77	
0	0	0	0	0	100%	

## (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(児童発達支援)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子					該当なし	
女子					該当なし	
計						
構成比率					100%	

事業名(入所支援)

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率					100%	



## (5) 援護市町村区分 (平成30年3月31日時点)

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
船橋市	77	0	0	0	0	77
						100%

## 4. 保護者の状況 (平成30年3月31日時点)

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	53	0	1	0	0	0	0	54
女子利用者	22	0	1	0	0	0	0	23
計	75	0	2	0	0	0	0	77
平均年齢	41.2							
最高年齢	69							

## 5. ア 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第1回園内新人研修	支援職員	H29.4.5	新人職員一同	
第1回法人新人研修	支援職員	H29.5.24	新人職員一同	
第1回法人合同研修	支援職員	H29.5.27	職員一同	
第1回園内研修	支援職員	H29.6.8	職員一同	OTPT
第2回法人合同研修	支援職員	H29.7.12	職員一同	児童
第2回法人新人研修	支援職員	H29.7.26	新人職員一同	
第2回園内研修	支援職員	H29.9.12	職員一同	OTPT
第3回法人新人研修	支援職員	H29.9.27	新人職員一同	
第3回園内研修	支援職員	H30.1.19	職員一同	OTPT
第4回園内研修	支援職員	H30.1.24	職員一同	
第3回法人合同研修	支援職員	H30.1.25	職員一同	

イ、 外部団体等主催研修への参加

研修内容	場 所	実施日		参加者
		月	日	
第52回理学療法学術大会	幕張メッセ	5月	12～14日	1名
船橋市摂食講習会 ①	船橋市職員研修所	6月	1日	2名
学校見学 知的学級	湊町小学校	6月	8日	1名
学校見学 知的学級	三咲小学校	6月	8日	1名
学校見学 市立支援学校	船橋市立支援学校	6月	13日	2名
学校見学 知的・情緒学級	行田西小学校	6月	14日	1名
学校見学 知的学級	法典小学校	6月	14日	1名
学校見学 知的・情緒学級	薬円台小学校	6月	14日	1名
船橋市摂食講習会 ②	船橋市職員研修所	6月	15日	2名
学校見学 市立支援学校	船橋市立支援学校	6月	16日	1名
学校見学 知的学級	高根台第二小学校	6月	19日	1名
船橋市摂食講習会 ③	船橋市職員研修所	6月	29日	2名
発達障害の理解と支援 PT	国立商協さくらホール	7月	2日	1名
知的障害、発達障害のある子への保育・療育	東京ファッションビル（国際展示場）	7月	28.29日	1名
感覚統合入門講座①	こども発達相談センター	7月	28日	1名
特別なかわりが必要な子への保育・教育	東京ファッションビル（国際展示場）	7月	31日 1日	1名
不器用さへの理解と指導	東京ファッションビル（国際展示場）	8月	3.4日	1名
ダウン症児への理解と障害発達を踏まえたサポート	東京ファッションビル（国際展示場）	8月	7.8日	1名
ことばの育ちを支援する	東京ファッションビル（国際展示場）	8月	9.10日	1名
千葉県相談支援従事者初任者研修	千葉市民会館	8月	17.18日	1名
応用行動分析の視点から	こども発達相談センター	8月	22日	1名
地域支援のための自立活動見学会	県立夏見台特別支援学校	10月	16日	1名
感覚統合入門講座③	こども発達相談センター	10月	20日	1名
県立船橋特別支援学校公開研究会	県立特別支援学校	10月	25日	1名
千葉県児童発達支援管理責任者研修	千葉市市民会館	11月	1日	1名
相談支援についての研修会	社会福祉法人さざんか会けいよう	12月	21日	1名
平成29年度療育支援研修会	千葉リハビリセンター	1月	20日	1名
重い障害のあるこども達への支援 ～「医療的ケア児」支援の制度化を受けて～	はまぎんホール ヴィアマーレ（横浜市）	2月	17日	1名

5. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届出	備考
1	H29.6.12	午前の室内遊び中、歩き出した児が床でうずくまっていた他児に躓き、転倒。その際近くにあったテーブルに左眉付近をぶつけ赤みが見られる。帰宅後保護者の判断により眼科を受診。受診結果：眼内には出血無し。他の異常も認められず。経過観察。	園児の動きを予測し、不必要なテーブルなどは、片づけておく。 クラス全体の園児の様子を把握し、保育者同士声を掛けあい、危険個所を確認していく。	済	
2	H29.6.13	13日降園後母よりTELがあり。背中の傷について問われる。翌日登園時に傷の確認をする。担当保育士から午前中の室内遊びの最中、保育者が寝そべっている園児の足を持ち、ゆらゆらと滑らせてふれあい遊びをしている時に、背中のTシャツがめくれあがっていたことに気付かず、遊んでしまった事での傷と判明。	遊びの中では児の様子をよく観察し、大人のペースでのミリな動きや突発的な動きを避けるよう全体周知していく。 降園前には、園でのケガや赤みがないかきちんとボディチェックをしてから保護者に引き渡していく。	済	
3	H29.6.23	午前中クラスで行田団地内公園へ散歩に出る。途中で園児が一人いない事に気づく。担任が、近辺を20分ほど探すが見つからず、警察に応援要請。その後、一緒に探してくれていた他事業所の職員が、見つけてくれる。	園外での活動については細心の注意を払い、職員体制も整えて、決して無理をしないよう周知徹底していく。 保育者は常に人数確認と全体把握の癖をつける。	済	
4	H29.10.3	午後の自由遊び中、保育室内に小型トランポリンを設置していたが、走って乗ろうとした児が、トランポリンを踏み外し床に顔をぶつけ、頬・おでこ・口をぶつける。唇から出血と歯のぐらつきが見られる。 受診結果：ぶつけた歯が乳歯だったので早急な処置の必要はなかったが、今後経過観察が必要との事	園児の動線や動きの大きさに合わせて保育室の安全な環境設定の徹底。 足元のバランスの悪い児に対して職員間の声の掛け合いや共通理解を深める事での再発防止	済	
5	H29.10.23	午後の設定遊び中、遊戯室内にて1m20cmほどの高さから厚さ20cmのマットに飛び降りる遊びで、飛び降りた児が着地に失敗足先をひねるような感じになる。 受診結果：左足中指と人差し指の根元あたりの骨にひびとの診断	危険を伴う遊具の設定時には、職員間で十分な配慮と事前確認を行っていく。 危険を予知する力をつけ、飛び降りようとする児の、状態把握にも努めていく。	済	

平成29年度

社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔笹川なずな工房〕

## 1. 平成29年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 作業について〈主として就労継続支援B型〉

平成29年度の作業売上げは18,517,605円（全体）ありました。金額的には前年度より若干下がったものの、経費を節減した為利益率は向上した結果、就労継続支援B型利用者への工賃は26,183円と大幅に向上しました。千葉県の平均工賃は13,769円（平成28年度）に比べほぼ2倍の工賃を支給する事が出来ました。千葉県には292カ所の就労継続支援B型事業所があります（平成28年度）その中で上位19位に相当する数字です。（29年度千葉版は未確定）とは言っても最低賃金レベルを考えると、これでいいという金額ではありません。更に高い工賃支給を目指すことが必要です。

### (2) 就労支援について（おもに就労移行支援）

残念ながら平成29年度中の就労実績はありませんでした。しかし、就労移行支援は就職後6ヶ月の定着実績を持って判断するのでそういう点では、29年度には1名定着しました（28年度後半に就職）。当施設の就労の特長は定着率が高いという点です。自己都合による退職者はいません。当施設の作業でじっくりと労働の厳しさと楽しさを身に付けた人をばかりなのでどのような環境でも投げ出さない強い心を持っています。今後も心を育ていく移行支援を続けていきます。

### (3) 職員のスキルアップ

福祉は労働集約型産業の代表です。それだけ人（職員）の力に負うものがあります。職員のスキルアップを図るために資格の取得を奨励してきました。支援員は大半が介護福祉士の資格を受験して取りました。資格を有する事がその支援の内容を保証するものではありません。しかし、資格を取るためにはそれなりの勉強や努力をしなければ取れません。それは遊びに行きたいとかの気持ちに打ち勝って勉強の時間を作ることです。強制でなく自発的に。笹川なずな工房の職員はそれだけ仕事を真剣に打ち込む気持ちがある職員であるとの証です。このような職員が揃っていることが当施設の最大の強みです。今年度の目標は常勤職員が全員の介護福祉士取得、非常勤職員も訪問介護初任者研修取得を目指します。

今年度も職員の退職者はありませんでした。5年8か月前に「語学留学をどうしてもしたい」と前向きに新しい道に旅立って行った職員を最後に、非常勤職員を含め全ての職員が残留してくれています。この事象はどの施設・企業でもないことで奇跡ともいえる状態です。それだけ職員の意識やスキルは高いものであって当施設の強みです。この高い専門性を生かしていきます。

### (4) 設備について

基本的な建物および作業のための機械は平成23年度からの3年計画で、整備したので今後4～5年は大丈夫と言えます。作年度、GH隣接地に北総育成園が建築をした農耕作業場「心田（しんでん）」（27年度に建築）で農産作業班が苺の加工をしています。

広くなった分効率の良い作業が出来るようになりました。グループホームを含め統一した外観も笹川なずな工房と一体化したデザインであり「野の花公園」の整備を含めて美観地区と呼ばれるようにしていきたいです。

但し、車両については老朽化が目立ちます。送迎に利用している「旧ヴォクシー」はすでに走行距離 200,000 kmを超えています。大切に使っているので（乗車前点検・毎月の点検等）大きな傷や故障は全くありません。とはいえ、走行距離が多いので補助金を利用して入れ替えを検討しています。

#### (5) 地域との関係について

地元東庄町は人口が1万4千人の小さな町です。農業以外にこれといった産業はありません。その中でイチゴは一番の特産物です。東庄町ふるさと納税の返礼品として当施設のイチゴジャムセットが選ばれました。売上げの方だけでなく、地元の広告塔となれば幸いです。

#### (6) 広報活動

28年度の「手をつなぐ」12月号に当施設の利用者家族が掲載された縁で、29年度5月号で当施設のジャムが推奨品として紹介されました。取材されてお家庭がスタッフにお土産としてお渡したジャムを食べてみたところ、とてもおいしいと大変評判になり、「是非応援したい。」と掲載に至りました。更に新たに9月に千葉駅ビルに出来た「東急ハンズ」にもジャムを出品する事が出来ました。千葉市へ出張に行く度に店舗に行って状況を確認するのですが品薄の状態が多くあります。そのような状態なので店舗からの注文を度々受けています。売れ筋は上々のようです。このように千葉を代表する商品に成長をしました。笹川なずな工房という一施設の製品というだけでなく。障害者の作った製品の社会的に広めていく役目からも広報活動に力を入れていきます。

#### (7) 情報公開

本年度も保護者と施設が協力して、施設運営をしていく為に、毎月1回以上施設発の「お知らせ」を発行してきました。利用者の近況やめまぐるしく変わる福祉制度をその都度情報を提供してきました。当施設は利用者も字を読める人が多いので、毎月の予定も休業日は赤印、特別行事は黄色印をつけ分かりやすい表記になっており、利用者にとっても大切な情報源となっています。

#### (8) 15周年記念事業 金沢研修旅行

「笹川なずな工房」創設15周年記念事業として、施設全員で（健康のため辞退者2名あり）金沢に研修旅行に行きました。利用者の新幹線に乗って旅行に行きたいとの希望から、石川県を選択しました。先進施設「シェア金沢」の見学や移動は公共交通機関を使った遠征旅行など今までにない体験をすることができました。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人・ 保育士等	看護師	調理員	その他 (事務員)	計
29年度当初							
男子	1	1	2.6 (1)	0			
女子			3.2 (3)		0.6 (1)	1.6 (1)	
計	1	1	6.8 (4)	0	0.6 (1)	1.6 (1)	
年度中増減	0	0	1.7 (1)			0	1
男子	0	0	0				
女子	0	0	+1.7 (1)				
計	0	0	+1.7 (1)	0	0	0	
30度当初	1	1	8.5 (5)	0	0.6 (1)	0	

\*管理者とサービス管理責任者は兼務

\*支援員 1名は育児休暇から復帰

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	就労移行	就労継続B	備考	計
定員	6	19	就労継続B型の定員を5名増員	25
29年度当初契約者数	7	21		
年度内新規契約者数	1	(1)	年度当初に就労継続支援B型から移動	
年度内解約者数	(1)		30年度は就労継続支援へ移動	
年度末契約者数	7	21		28

### (2) 利用率

利用事業名	就労移行	就労継続B	備考	計
年間延契約者数	1883	5111		
年間開所日数	269	269		
年間延利用者数	1807	5112		
利用率	96.0%	90.5%		
利用率(定員割り)	112%	100%		

## (3) 利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	20～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男子	2	3	4	2	0	0
女子	1	4	3	2	1	1
計	3	7	7	4	1	1
構成比率	10%	25%	25%	14%	3%	3%

46～50	51～55	56～60	61～65	65歳以上	計	平均年齢
0	0	1	0	0	16	32.9
0	0	0	0	0	12	28.0
4	0	1	0	0	28	30.8
14%	0	3%	0	0	100%	

## (4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(就労移行)

区分	1	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	0	2	1	0	0	2	5	—
女子	1	0	0	1	0	0	2	—
計	1	0	0	1	0	2	7	—
構成比率	28%	14%	14%	14%	0	28%	100%	—

事業名(就労継続B型)

区分	1	2	3	4	5	区分なし	計	平均区分
男子	1	2	4	1	1	2	11	—
女子	1	4	1	3	0	1	10	—
計	2	6	5	4	1	3	21	—
構成比率	9%	28%	24%	19%	5%	14%	100%	—

## (5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	東庄町	銚子市	香取市	その他		計
					県内	県外	
男	0	1	1	11		1	16
女	0	4	3	6		0	12
合計	0	5	4	17		0	28



## 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	9	0	5	2	0			16
女子利用者	10	1	0	0	1			12
計	19	1	5	2	2			28
平均年齢	—	—	—	—	—			—
最高年齢	74才	60才	75才		87才			

## 4. 職員研修について

### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
キャリアパス研修	サビ管	5月18日	施設長	本部
法人事務会議	事務職	7月26日	星野	本部
工賃査定会議	支援員	毎月中旬	全支援員	ケース会議

### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
笹川なずな工房	金沢研修	9/13~15	支援員 利用者	シェア金沢
日精研	日精研公開講座	6/10 7/8 8/5 3/25~26	施設長	東洋大学 伊東
就労支援センター	食品表示研修	1/16	金島	
香取就業センター	就労支援と工賃向上	2/27	羽生・星野	
ハローワーク	ジョブガイダンス	8/4 10/10	金島	利用者
千葉セルプ	優先調達法展示会	6月27日	圓城寺・野口	
香取保健所	食品講習会	6/14	高野	

## 5. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	対応	行政への届け出	備考

1	10月 30日	kさんが自分で管理をしている緊張緩和剤（1錠）を職員に飲ませてくれと要求し、飲ませたがすでに日直職員が飲ませており2重投薬をしてしまった	<ul style="list-style-type: none"><li>・事故報告書の作成</li><li>・職員会議での事故内容共有</li><li>・事後体調の観察</li></ul>	なし	その後の体調不良なし
---	------------	--	--	----	------------

平成29年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔カメラリアハウス〕

## 1. 平成29年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 就労継続支援B型事業における工賃向上

昨年度に引き続き障害者就労振興支援センターの主導による工賃向上計画が就労継続支援B型事業においては命題として挙げられており、目標工賃達成加算をとれないような事態になってしまうと事業所の運営自体が危ぶまれてしまう。しかしながらやはり世間で聞かれる好景気への機運は下請け作業などの末端の業務においては感じられておらず、低報酬の作業を数多くこなしていかなければならない現実是不変である。

平成28年度は職員が情報収集などの努力を重ね収入増へつなげたことで目標工賃を達成してきたが、年々上昇を求められる仕組みであるので更なる収入源を模索しなければならなかった。そこで以前より生活介護で取り組んでいた地域新聞のポスティングに目をつけ配布地域の拡大を図った。定期的に仕事が入るポスティングは収入面での安定化をもたらし、更には日頃運動不足に陥りがちな就労継続支援B型の利用者さんの健康増進にも効果をもたらした。この他にも単価は安いものの多量かつ定期的に仕事が入る折込作業も開始し、年間を通して仕事が途切れてしまうことなく提供できていた。結果的には大幅に増収し設定した目標工賃を達成することができた。ひとえに担当職員の熱意、そしてそれに呼応してくれた利用者さんの努力の賜物であると思われる。

### (2) 製菓作業の販売量向上、新製品開発

就労継続支援B型事業における工賃向上への取り組みにおいて自らの努力で増収の可能性を持っているのは自主生産品の販売である。販売価格に幅を持たせ、更なる向上を図るため同法人内を軸に販売路の拡大を図ってきた。

新商品の開発に対しても意識を持ち続けており、職員が製菓等の研修に赴きさまざまな点で改良を加え、生産に余裕のある時期は新しい味のパウンドケーキ開発に取り組んできた。平成29年度はチョコマーブル味、紅イモ味が商品化され主力商品としてレギュラー化されている。

また、平成28年度までは主に製菓担当の職員が独りしかおらず精神面、体力面でかなりの負担がかかっていたことがあった。平成29年度より職員数が増加したため、もう一名の製菓担当者を配置し負担の軽減化を図り、その結果販売量の増加、新商品の開発、副産物としては利用者さんの新しい側面が垣間見えるなどの効果が生まれた。

### (3) 就労継続支援B型作業意識向上への取り組み

工賃の向上を図るにあたっては当然ながら作業の量、正確性、難易度などが求められる。しかしながらさざんか作業所時代より利用者さんの作業意識、技術の向上という面においては本格的な取り組みはしておらず、疎かになっていた傾向があった。もちろんそのあたりに関しての理由はあり、楽しく通ってもらえる事業所という点を前面に出していた事実がある。しかし近年の障害福祉施策として就労への方向性が強く押されており、目を背けてもいられない現状となっている。そこでまず一歩目の取り組みとして他法人の就労継続支援B型事業所の見学を行った。全員で赴くことは難しいので、訪問先の作業内容等で勘案し数名の方に参加してもらった。もちろん一度で目に見える成果は出ないが、各利用者さんそれぞれに刺激を受けられたようで少しずつ意識が向上されている様子がかがえていた。また、職業人としての意識を持ってもらうためネームタグを導入した。

さらに日々の作業の中では環境に影響が及ぼされる側面があるので机の配置、別室の活用などの環境整備を行い、少しでも集中力を保持できるよう工夫を凝らしてきた。

#### (4) 船橋市障がい者地域福祉連絡会への参加

平成28年度よりスポット的に販売会に参加をしていた船橋市障がい者地域福祉連絡会へ本格的に参加をし始めた。NPO法人が主に集っており、正式に加盟はしていないが販売会、定例会へは積極的に参加してきた。中でも定期的開催される市役所一階での販売会の効果は大きく、パウンドケーキの売り上げに大きく影響をもたらしていた。また、生活介護で作成している季節ものの手工芸品は販売の時期がうまく合わなければ出品が難しいものであったが、定期的開催される市役所販売にはタイムリーに出品することができ、作成をする利用者さんの意欲を大きく増進されていた。また、利用者さんが販売員として活躍する機会を持つことができ、自分たちの作成したものがお客さんの手に渡っていくことを実感できるとともに、社会性を育むという面においても効用があったように思われる。

#### (5) 送迎体制の変更

利用者さん及びご家族の生活様式の変化に伴い送迎体制を変更する必要性が生じてきた。生活環境が変わってしまうのでカメラハウスへ通うことができないといった状況は極力避けたいものであり、可能な限りで柔軟性のある対応を図った。その結果3月より乗用車での新しい送迎コースを設定、もう一方で中型車において従来走っていたコースを変更し、できるだけ各バス停到着時間に影響のない形での対応を行った。

#### (6) 他事業所への協力体制

グループホームに対して幅広く協力体制をとってきた。従来の男性職員の週末宿泊は継続し、更に女性職員の早番、遅番、宿直とかなりの頻度で協力を行った。そん

な中でも職員が顔を合わせる機会が損なわれてしまうと職員間の意思の疎通が阻まれてしまうことに意識を持ち、会議日等を柔軟に設定して機会を確保してきた。

(7) 相談支援事業所との連携

昨年度に引き続き法人内外の相談支援事業者と連携をとり利用者さんの生活の質向上を図ってきた。結果的に家族との同居生活が難しくなった方をグループホームでの生活につなげるなどの成果を得ることができた。

(8) 農福連携

以前カメリアハウスに所属されていた方の保護者より農作業へのお誘いをいただいた。初めのうちはお互いに手探り状態で草取りなどの簡単な作業がメインだったものの、次第にさまざまな作業に取り組むことができていた。また就労継続支援B型の利用者さんに参加してもらうことで工賃の向上へとつなげることができていた。自然に触れながらの作業はあまり経験する機会が無く、楽しそうに参加されている様子が見えていた。

2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数第2位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員	その他(運転士等)	計
29年度当初	常勤1	兼務	常勤7 非常勤5 非常勤(2.9)	非常勤1 非常勤(0.1)		非常勤2 非常勤(1.3)	常勤8 非常勤8 非常勤(4.3)
男性	常勤1	兼務	常勤3 非常勤1 非常勤(0.6)		( )	非常勤1 非常勤(0.4)	常勤4 非常勤2 非常勤(1.0)
女性			常勤4 非常勤4 非常勤(2.3)	非常勤1 非常勤(0.1)	( )	非常勤1 非常勤(0.9)	常勤4 非常勤6 非常勤(3.3)
計	1 (1)	兼務	12 (9.9)	1 (0.1)		2 (1.3)	16 (12.3)
年度中増減			なし	なし		なし	なし
男性	1	兼務	4			1	6
女性			8	1		1	10
計	1	兼務	12	1		2	16
30年当初	1	兼務	常勤8				常勤9

	(1)		非常勤 6 (11.9)	非常勤 1 (0.1)		非常勤 2 (1.4)	非常勤 9 (14.4)
--	-----	--	-----------------	----------------	--	----------------	-----------------

施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
定員	23	12			35
定員 (29.10 より)	28	12			40
29 年度当初契約者数	31	14			45
年度内新規契約者数	2	0			2
年度内解約者数	1	0			1
年度末契約者数	32	14			46

(2) 利用率

利用事業名	生活介護	就労継続 B			計
年間延契約者数	7,917	3,500			11,417
年間開所日数	250	250			
年間延利用者数	6,825	2,565			9,390
利用率	86.2%	73.3%			82.2%

(3) 利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20 才以下	21～25	26～30	31～35	36～40	41～45
男 性	2	11	2	0	5	2
女 性	1	2	1	0	1	3
計	3	13	3	0	6	5
構成比率	6.5%	28.3%	6.5%	0%	13%	10.9%

46～50	51～55	56～60	61～65	66 歳以上	計	平均年齢
5	0	0	0	2	29	35
2	1	2	2	2	17	46
7	1	2	2	4	46	
15.2%	2.2%	4.4%	4.4%	8.6%	100%	

(4) 利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名(生活介護)

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男 性	2	8	10	2	22	4.5
女 性	1	5	1	3	10	4.6
計	3	13	11	5	32	4.6

構成比率	9.4%	40.6%	34.4%	15.6%	100%	
------	------	-------	-------	-------	------	--

事業名(就労継続支援B型)

区分	非該当	2	3	4	計	平均区分
男性	0	1	2	4	7	3.4
女性	3	3	0	1	7	1.4
計	3	4	2	5	14	2.4
構成比率	21.4%	28.6%	14.3%	35.7%	100%	区分1は0人

(5) 援護市町村区分(平成30年3月31日時点)

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内[千葉、松戸市]	県外	
男性	26	2		1		29
女性	13	3		1		17
計	39	5		2		46
構成比率	84.8%	10.8%		4.4%		100%

3. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	23		6					29
女子利用者	6		5	4			2	17
計	29		11	4			2	46
平均年齢								
最高年齢								

4. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第一回法人全体研修	全職員	29年5月27日	6名	「食」についてグループ討議
第二回法人全体研修	全職員	29年7月29日	8名	コミュニケーション研修
サービス向上委員会研修	全職員	30年1月27日	8名	虐待防止全体研修 支援の中のグレーゾーン
職員交換研修	支援員		2名	10/31, 11/1ゆたか福祉苑



## イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
権利擁護委員会	虐待防止身体拘束廃止	29年6月2日	1名	
東京都障害者通所活動 施設職員研究会	支援力を高める	29年6月8日	1名	
日本知的障害者福祉協 会	全国知的障害関係 施設長等会議	29年7月4日	1名	
日本てんかん協会	てんかん基礎講座	29年7月21, 22日	1名	
独立行政法人医療福祉 機構	障害福祉サービス経営セ ミナー	29年9月8日	1名	
NPO法人船橋福祉施 設連絡協議会	障害者虐待防止研修	29年9月26日	1名	
	新任研修マナー講座	29年9月28日	1名	
日本発達障害連盟	自閉症セミナー	29年9月30日	1名	
三幸福祉カレッジ	アンガーマネージメ ント	29年10月16日	1名	
船橋労働基準協会	人事・労務管理研修会	29年10月18日	1名	
障害者就労事業振興センタ	栄養成分表示	29年11月29日	2名	
県知的障害者福祉協会	強度行動障害支援者 養成	29年12月1日 8日	1名	2日開催
日本知的障害者福祉協会	日中活動支援部会全 国大会	29年12月12 日13日	1名	2日開催
PACガーディアンズ	「成年後見制度利用 促進法」を学ぶ	29年12月16 日	1名	
県知的障害者福祉協会	施設長研修会	29年12月18 日19日	1名	一泊研修
千葉県知的障害者福祉 協会支援スタッフ部会	東葛北、南ブロック合 同交流研修会	29年12月20 日	1名	
千葉県健康福祉部健康 づくり支援課	食品表示(栄養成分表 示)研修会	30年1月16 日	1名	
千葉県健康福祉部障害 福祉事業課	就労会計活動明細書 の作り方	30年2月9日 22日	3名	2日開催
茨城県心身障害者福祉 協会	関東地区障害者支援 施設部会研修会	30年2月13日	1名	
船橋市障がい者地域福 祉連絡会	成年後見人制度につ て	30年2月15日	1名	

県知的障害者福祉協会	施設長・事務長研修会	30年2月28日	1名	
------------	------------	----------	----	--

5. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	4月21日	利用者さん着席の際、椅子が後ろに滑り転倒	ご本人への注意喚起をし意識を持ってもらう	無	
2	8月28日	週明けに利用者さんの左まゆあたりに青あざのようなもの、目尻に内出血のようなものが見られた	原因、場所を特定できず、その方の動きが極力職員の視野に入るよう対応	無	
3	7月14日	送迎車内で職員の粗雑な対応を見かけた方が虐待の疑いと他事業所へ通報	報告書を作成し理事長に提出。ご家族に経緯を説明し謝罪、後日指導監査課が来所され説明	有	
4	9月22日	乗車の際にバランスを崩し自らの体を左手で支える。その際に左手薬指付け根を圧迫骨折されたとみられる	車の乗り降り等の危険が伴う際には職員が補助をすることで怪我等の防ぐよう対応	有	
5	11月1日	帰りの送迎車へ乗る際、添乗職員が離れてしまい利用者さん同士でトラブルが発生	利用者さんが乗車されている際には必ず職員が付き添うよう徹底	無	
6	1月31日	利用者さんが興奮された際の制止で顔に傷を作ってしまう	興奮された利用者さんがいた際には怪我を負わせてしまわぬよう冷静に対応を図る	無	
7	2月23日	近隣の小学校より当事業所利用者さんが女児を追いかけて走っていたとの報告があった	謝罪に伺い行為に関して深い意味合いはなかったであろうことを説明、今後はバス停まで職員が付き添う対応	無	

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔魔法のランプ(居宅介護部門)〕

# 目 次

表 紙	1
目 次	2
1.平成29年度事業活動重点事項及び、成果、2.職員体制と人材確保	3
2.職員体制と人材確保、3.施設等利用者の状況、(2)利用率、(3)利用者の年齢区分	4
(3)利用者の年齢区分、(4)利用者の障害支援区分、(5)援護市町村区分、4.保護者の状況	5
5.職員研修、イ. 外部団体の研修	6
イ. 外部団体の研修、6.事故の発生について	7
6.事故の発生について	8

## 別 紙

- 1、 介護給付事業利用者数
- 2、 移動支援事業実績表（利用者数、収入額）
- 3、 宿泊サービス実績表（利用件数、利用者数）
- 4、 介護給付事業実績時間数
- 5、 移動支援事業実績表（利用者数、利用時間数）
- 6、 魔法のランプ 総収入額実績表

## 7、 福祉有償運送事業 実績表

### 1. 平成 29 年度事業活動重点事項及び成果

#### (1) 宿泊サービス

- ▶ 今年度は、消防法の改正の関係で、障害者支援区分 4 以上の方が宿泊する事業を展開する際に、スプリンクラーを入居していたマンションの全戸室に取り付けないといけないことになり、宿泊事業を続行する為の移転を視野に入れながら実施しています。(オーナー様のご厚意で、新築物件を建てて頂いています。)
- ▶ 当事業所の私的サービスです。当事業所内での宿泊を実施しています。理由はお家族のレスパイト的な要素で宿泊されることが多くありました。

#### (2) 福祉有償運送事業

- ▶ 当事業所にある自家用車 2 台(ワゴン R、車椅子仕様車スロープタイプ)を利用して、サービス時の移動や送迎などに利用しています。基本的には上記のサービスを絡めてご契約者様にはお願いし、実施しています。
- ▶ 成人利用者様限定で実施しています。
- ▶ 車を利用しての上記の事業を併用するニーズが有り、利用率が若干増えています。
- ▶ 今年度は、送迎のみ(タクシー替り)でご利用される方が増えてきており、短い時間で人件が割かれるので、出来たら他の事業と絡めて併用して頂けるようお願いをしていきたいと考えます。また、タクシーで代用できそうな送迎についての精査もしていけたらと考えます。

#### (3) 成果について

- ▶ 事業の成果については、別紙 1~7 を参照。

### 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数1位四捨五入

	管理者	サビ提等	支援員・世話人・保育士等	看護師	調理員・栄養士 事務員	その他(登録ヘルパー等)	計
29 年度当初	1	2	9		1	8	21
男 子	1 <small>代員、親縁続</small>	2 <small>支援員兼務</small>	7 ( 2 )	( )	( )	4 ( 4 )	14 ( 6 )
女 子			2 ( 0 )	( )	1 ( 1 )	4 ( 4 )	7 ( 5 )
計	1	2	9		1	8	21
年度中増減			-2			+1	
男 子	1	2	5			2	10

	光復、避難業務	支援員兼務	( 1 )	( )	( )	( 2 )	( 3 )
女 子			2 ( 0 )	( )	1 ( 1 )	7 ( 7 )	10 ( 8 )
計	1	2	7		1	9	20
年度中増減			-2			+1	
30年度当初	1	2	7 ( 1 )	( )	1 ( 1 )	9 ( 9 )	20 ( 11 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

※ カナスギセブン世話人及び、世話人補助も含む

※ 現在も男性の登録ヘルパーさんが不足している状況で、今後も増員していきたい。

### 3. 施設等利用者の状況

#### (1) 利用契約者

利用事業名	障害福祉サービス事業				地域生活 支援事業	計
	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	
定 員	—	—	—	—	—	—
29年度当初契約者数	66	7	27	5	170	275
年度内新規契約者数	0	0	0	0	0	0
年度内解約者数	2	0	0	0	2	4
年度末契約者数	64	7	27	5	168	271

※ 障害福祉サービス事業と地域生活支援事業の契約重複者含む

#### (2) 利用率

利用事業名	居宅介護	重度訪問介護	行動援護	同行援護	移動支援	計
年間利用者数	229	44	248	26	764	1,311
年間開所日数	365	365	365	365	365	365
年間延利用者数	2,902	1,234	617	43	1,766	6,562
利用率	7.9%	3.6%	40.2%	60.5%	43.3%	20.0%

#### (3) 利用者の年齢区分(平成30年4月1日時点)

年齢区分	0~5	6~10	11~15	16~18	19~20	21~25
男 子	0	0	3	2	3	29
女 子	0	0	1	1	1	4
計	0	0	4	3	4	33
構成比率	0%	0%	2.4%	1.8%	2.4%	19.6%

26~30	31~35	36~40	41~45	46~50	51~55	56~60
8	9	14	24	19	7	1
4	3	4	9	13	2	2
12	12	18	33	32	9	3
7.1%	7.1%	10.7%	19.6%	19.1%	5.4%	1.8%

61~65	65歳以上				計	平均年齢
2	2				123	
1	0				45	
3	2				168	
1.8%	1.2%				100%	

(4) 利用者の障害支援区分(平成30年4月1日時点)

事業名( 居宅介護、重度訪問介護、行動援護、同行援護 )

区分	なし	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	0	0	3	10	16	22	51	
女子	0	2	0	2	4	9	17	
計	0	2	3	12	20	31	68	
構成比率	0%	2.9%	4.4%	17.7%	29.4%	45.6%	100%	

(5) 援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子(成人)	120	1				121
女子(成人)	40			2		42
男子(児童)	4					4
女子(児童)	1					1
合計	165	1		2		100%

4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	75	4	29	8	5	2		123
女子利用者	23	2	15	2	3	0		45
計	98	6	44	10	5	0		168
平均年齢								

最高年齢							
------	--	--	--	--	--	--	--

5. 職員研修について

ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
第1回合同研修会	直接処遇 スタッフ	29年5月27日	5人	グループワーク テーマ「食について」
第2回合同研修会	直接処遇 スタッフ	29年7月29日	3人	接遇マナー研修 三幸福社主導による
さざんか会内部研修 (エピペン研修)	直接処遇 スタッフ	29年8月9日	1人	児童施設主導による
さざんか会内部研修	直瀬処遇 スタッフ	29年11月14日	4人	テーマ「発達に偏りのある 子の子育て」
相談支援事業現状報告会	直接処遇 スタッフ	29年12月21日	1人	「魔法のランプ」「とらのこキッ ズ」相談支援専門員からの報告
第1回サービス向上 委員会職員研修	直接処遇 スタッフ	30年1月27日	5人	淑徳大学准教授 松浦俊弥氏講演会「支援に おけるグレーゾーンについて」
スタッフ内部研修				
発達障害について	橋本	29年8月26日	1人	魔法のランプ独自 スタッフ勉強会
日本と世界の後見人 制度の違いについて	細割	29年8月31日	1人	魔法のランプ独自 スタッフ勉強会
意思決定支援につい て	牟田	29年8月25日	1人	魔法のランプ独自 スタッフ勉強会
成年後見人制度の歴 史について	大橋	29年8月31日	1人	魔法のランプ独自 スタッフ勉強会

イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
協進交通有限会社	福祉有償運送運 転者講習会	29年5月24, 25日 (2日間)	1人	
NPO法人ラフト	ざだんかい vol.7 テーマ「意思決定支援について」	29年6月25日	5人	
千葉県社会福祉協議会	ストレスマネジメント研修 ～お人様お心に、心の奥底を高めるワークショップ～	29年8月8日	1人	
千葉県社会福祉協議会	権利擁護(障害者支援)研修 ～多様性の尊重～	29年9月1日	1人	
千葉県社会福祉協議会	職員の定着応援研修No.1 ～スタッフが辞めない職場の創り方～	29年9月20日	1人	
一般社団法人 船橋	人事・労務管理研修会	29年10月18日	1人	



労働基準協会	『解雇するとき・退職するとき』			
千葉県相談支援事業 連絡協議会	児童支援の基本の「キ」	29年11月8日	1人	
公共財団法人介護労働安 定センター千葉支所	同行援護従業者養成研修	29年11月7, 8, 9 日(3日間)	1人	
特定非営利活動法人 生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成 研修(基礎研修)	29年12月1, 5日	1人	
PAC ガーディアンズ	「後見人制度利用促進法」と成年後見人 制度促進基本計画について	29年12月16日	1人	
千葉県健康福祉部障害者福祉推 進課・千葉県総合支援協議会	第六次千葉県障害者計 画フォーラム	29年12月27日	1人	
NPO法人ラフト	ざだんかい vol.8 テーマ「統・意思決定支援について」	30年1月21日	5人	
社会福祉法人千葉県社会福祉協議会	古武術介護研修 ～身体を痛めず、易し い介護をする秘訣～	30年1月26日	2人	
社会福祉法人千葉県社会福祉事 業団	「障害児・者における口腔機 能へのアプローチ」	30年2月8日	1人	
特定非営利活動法人 生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成 研修(実践研修)	30年2月26, 27 日(2日間)	1人	
千葉県健康福祉部 障害福祉事業課	障害者虐待防止・権 利擁護研修	30年2月28日	1人	

## 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	4月18日 (火)	ご利用者様の私物遺失	利用者様から預かった貴重品は、当 事業所指定の貴重品袋に入れ、自己 管理の徹底を図る。	無	
2	6月4日 (日)	ご利用者様宅にお伺いした際に、車を路上駐車し た為、その間に後方を当て逃げされた車両事故	少しの間でも車で移動する際は、必 ず駐車場に停めることを心掛ける。	無	
3	6月11日 (日)	ご利用者様の私物遺失	ご利用者様が持参されている 私物についても気にして確認 するようにする。	無	
4	6月25日 (日)	療育手帳の一時紛失	必ず、「療育手帳・お財布・連絡ノート」3点セ ットの確認を怠らないように徹底する。	有	
5	7月2日 (日)	療育手帳の一時紛失	必ず、「療育手帳・お財布・連絡ノート」3点セ ットの確認を怠らないように徹底する。	有	
6	7月22日	スタート時間の遅刻	体調等の自己管理を徹底して、遅刻がないよう	無	

	(土)		にしていく。		
7	7月25日 (火)	留守番電話の転送に対して、折り返し連絡しなかった為のご利用者様保護者様との行き違い	留守番電話の転送電話については、必ず聞いた者が責任を以て対応し、連絡することを徹底する。	無	
8	7月29日 (土)	終了時間の確認ミス	いつもと同じサービスと思わず、その都度サービス時間については、パソコン上でチェックをして勘違いないように徹底する。	無	
9	8月15日 (火)	療育手帳他、貴重品の一時紛失	必ず、「療育手帳・お財布・連絡ノート」3点セットの確認を怠らないように徹底する。	有	
10	8月31日 (金)	確認メールによる伝達ミス	送信する前に、再度内容確認を行う。	無	
11	9月10日 (日)	迎え場所の間違いによるスタート時間遅れ	確認メールについて、いつもと同じと思いがちなので、必ず確認メールを隅々までチェックするように徹底する。	無	
12	9月27日 (水)	利用者様のご自宅内にてヘルパーによる器物破損	決して故意ではないのですが、自分の足元を良く確認しなかったため、動く際には周囲を確認して動くように徹底する。	無	
13	11月3日 (金)	ご利用者様による店内にて、商品破損	店主に即謝罪をしています。その店の前を通る際は、十分に配慮をして対応していきます。	無	
14	11月22日 (水)	福祉有償運送にてご利用者様乗車中による車両事故	バックモニターカメラが装着してはいるが、そちらを確認しないまま後方に駐車してあった車に衝突したので、必ず確認してバックするように徹底する。	有	ゆっくりバックしていたので、ご利用者様にはお怪我はありませんでした。
15	12月3日 (日)	サービス時にご利用者様の実績記録票を受け取り、一時紛失	カバンを持参せず支援していたので、必ずカバンを持参しての支援を徹底する。	無	
16	3月18日 (日)	ご利用者様の一時見失	ヘルパーがトイレに行っている間に起こってしまったことなので、トイレに行くタイミングはご利用者様の食事中などに行って頂くようお願いし、徹底する。	無	

平成 29 年度

社会福祉法人さざんか会  
事業報告（統一版）

事業所〔魔法のらんぷい 相談支援〕

## 平成 29 年度事業活動状況/課題

管理者：中川公二（のまのまホームズ管理者兼務）

相談支援専門員：古川世志恵（けいよう管理者兼務） 高嶋伸吾（専任）

○サービス等利用計画作成：128 名(古川：48 名 高嶋 80 名)

- ・大半は在宅。通所系サービス利用者。

### ○現状と課題

- ・サービスが不足している。特に移動支援（移動介護/通学通所支援ともに）、短期入所、共同生活援助。
  - ・モニタリング等でご本人やご家族からお話をお聞きするとニーズは出てくる が、実際に利用できる事業所が見つからないというケースが多い。また、市内で知的障害と身体障害(常時車椅子ではないが、自力歩行は介助/見守りを要す。)を重複されている方、医療的ケアが必要な方(胃ろう等)の短期入所先もない。
  - ・精神科の入退院を繰り返してしまい、地域で孤立してしまいがちな方への支援チームとしての関わり。
  - ・ご家族が高齢の方、ご家族にも何らかの障害をお持ちの方、ひとり暮らしの方については、相談支援専門員との関係が密になる傾向が伺え、対応に時間を要す機会が増し、従来の相談支援専門員という役割以上の事を強いられてしまう事もある。（しかし個人的に致し方がないことであり、自身が関わらなければ他に頼る人がいない状態なので、必要とあれば可能な限り支援はしているが、何ら報酬に反映されていないのが実情である。）
  - ・モニタリング時以外の期間に、連絡をこまめに取らずに状況把握が後手になってしまうことがある。
  - ・新規の依頼者が相談支援事業所を見つけられず、たらい回しにされてしまうことが多い。障害福祉課の窓口でも一覧表を渡されるだけ。各事業所も断るだけ。→困った末に相談を受けるケースもある。
  - ・医療機関との連携。
  - ・通所事業所とご家族、相談支援専門員の関係が難しく感じるケースがある。（通所事業所スタッフとご家族の関係が希薄。）
  - ・運営形態（職員体制）について今後どう展開していくのか課題。（地域移行及び定着支援。また触法障害者支援等にどう対応していくのか？）

平成 29 年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔DD ホームズ〕

## 1. 平成 29 年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 支援のあり方

一人ひとりの意思が尊重され「自分らしく生きる」ことや、目の前の障害のあるご本人の思いに寄り添い「その人らしい暮らし」を作ることを見点とする。そんな支援のあり方を実践してきました。また、個々の特性や状況を把握し、最も必要と思われるニーズを選択し反映させる為に、個別支援計画で具体的なことを記述し、その都度立ち返り、検証することにも努めてきました。

### (2) 安全面について

一般的に生活の場面での事故などは、家屋内での発症率が高いとされています。移動時における僅かな段差への注意など、建物の構造上の問題においても配慮してきました（危険が予測される箇所へのソフトラバーの設置等々）。しかしながら、ホームによっては打撲や裂傷などの報告を受けています。今後は改善されるように対処していきたいと思えます。

### (3) 健康について

日々の調子については、親御さんや看護職員、日中関わっているスタッフとの情報交換を経て、体調の変化等に目を向けてきました。今後は年齢を重ねるにつれて、健康面については更なる配慮が必要になってきますので、寒暖の差や季節ごとにきめ細やかな支援が求められると考えます。有意義な日常生活をつつがなく送るには、健康でいられることが最も大切だと考えます。

また、ホームごとに個々の掛かりつけの病院、連絡先、主治医等をまとめた表を掲示し、緊急時に備えています。

### (4) 食事提供について

平成 23 年の初夏に食中毒の発生があり、短期間ながら閉鎖を余儀なくされたホームがありました。その苦い経験を踏まえ、専門家を招いての食品衛生講習を実施しました。ホームに携わる全員が受講することで、調理の際の安心安全の意識を高めてきました。おいしく食事を摂ることは、健康で楽しく生活を送る上での基本となります。その点を踏まえながら、各ホームでバラエティに富んだ食の提供が出来たのではないかと思います。

### (5) 防災と設備について

高齢者も含むグループホームの火災による死亡事故が起きている昨今では、より高い意識をもって防災対策に取り組んでいく必要があります。災害時に備え、消防計画に基づき、災害の予防と人命の安全を最優先に考えています。各ホーム年 2 回の避難訓練の実施や、日常の点検、非常食等の管理、設備面での取り組みも行ってきました。また、消防の立ち入り調査も順次実施されてきました。その際の指摘事項に関しては、提携の防災関連会社のバックアップを受けつつ、その都度対処してきました。

## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※小数点1位四捨五入

	管理者	サビ管 等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転 士等)	計
29年度当初	1	4	22				27
男子	1	2	7 ( 3 )	( )	( )	( )	11 ( 3 )
女子		2	15 ( 13 )	( )	( )	( )	15 ( 13 )
計	1	4	22				27
年度中増減	±0	-1	+1				±0
男子	±0	-1	+2 ( +1 )	( )	( )	( )	+1 ( +1 )
女子			-1 ( -1 )	( )	( )	( )	-1 ( -1 )
計	1	3	23				27
30年度当初	1	3 ( 1 )	24 ( 17 )	( )	( )	( )	28 ( 18 ) 常勤換算 ( 11.5 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	共同生活援助			計
定員	41			41
29年度当初契約者数	40			40
年度内新規契約者数	2			2
年度内解約者数	1			1
年度末契約者数	41			41

### (2) 利用率

利用事業名	共同生活援助			計
年間延契約者数				
年間開所日数	365			365
年間延利用者数	10,288			10,288
利用率	72.2%			72.2%

## (3)利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	～24歳	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
男子	1	0	0	3	4	16
女子	0	0	1	0	0	5
計	1	0	1	3	4	21
構成比率	2.5%	0%	2.5%	7.3%	9.8%	51.2%

50～54	55～59	60～64	65～69	70歳～	計	平均年齢
6	0	0	1	1	32	48.1
0	2	0	0	0	8	47.6
6	2	0	1	1	41	46.9
14.7%	4.9%	0%	2.5%	2.5%	100%	

## (4)利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名 (共同生活援助)

区分	なし	1	2	3	4	5	6	計	平均区分
男子	2	0	5	4	10	6	6	33	3.87
女子	0	0	0	1	3	2	2	8	4.62
計	2	0	5	5	13	8	8	41	4.02
構成比率	4.9%	0%	12.2%	12.2%	31.7%	19.5%	19.5%	100%	

## (5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
	40			1		41
						100%



## (6)保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	15	1	6	8	2		1	33
女子利用者	2		4	2				8
計	17	1	10	10	2		1	41
平均年齢								
最高年齢								

## 4.事故報告について（\*行政報告事項）

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	備考
1	H29.10.08	入浴後に下血を確認。救急隊により救命処置を施してもらいが、回復されず死去に至る。	この件を踏まえ、日々のバイタルチェックで客観的に健康面において把握していく必要性を感じた。また、なんらかの容体の変化を感じた際には、早めの対応を心がけるべき。また、個人の判断だけでなく、連絡相談等の体制と連携の確認と強化を検討する。	
2	H30.02.23	浴室の方で騒々しい音があったので確認に行くと、ご本人が浴室床に尻もちをつく姿勢で左目に出血と腫れが見られた。 直接見ていないので定かではないものの、脱衣所に他の入居者が立っていたので、何らかのトラブルがあったことも予測される。	関係性の問題でトラブルが考えられる対象者との直接的な対面の場面は、出来る範囲でなくすように配慮していく。	

## 5職員研修について

### ① 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
保健衛生	全職員	29年5月12日	19名	
逸失利益	々	29年7月14日	17名	
コミュニケーションマナー	々	29年7月29日	9名	
食事制限	々	29年11月10日	17名	
食生活	々	29年12月15日	15名	
権利を守る	々	30年1月27日	3名	
虐待防止	々	30年3月9日	12名	

### ② 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
NPO 法人ふわり	障害者グループホーム運営のノウハウを学ぶ	29年5月17日 18日	1名	
特定非営利活動法人生活サポート千葉	強度行動障害支援者養成研修	29年6月23日 29年6月26日	1名 1名	
リコージャパン株式会社	リコー福祉セミナー	29年7月11日	1名	
千葉県社会福祉士会	住み慣れたこの街で暮らすこと	29年12月9日	2名	
日本グループホーム学会	地域で共に暮らす	29年12月10日	3名	
バックガーディアンズ	成年後見制度利用促進方	29年12月16日	4名	
千葉県	サビ管フォローアップ	30年1月10日	1名	
千葉県社会福祉協議会	これからの社会、これからの障害者支援	30年2月3日	2名	
千葉県障害者グループホーム等支援事業	グループホーム、どんな想いで支援しているの？	30年2月10日	3名	
千葉県手をつなぐ育成会	グループホームですっと暮らし続ける	30年2月13日	3名	
はーぶ	虐待防止	30年2月20日	5名	
千葉県手をつなぐ育成会	家族それぞれの my life	30年2月26日	1名	
千葉県障害者発達支援センター	強度行動障害のある方の支援者に対する研修事業実践報告会	30年3月3日	1名	
積水ハウス	障害者総合支援法改定内容の詳細と事業運営の仕組み	30年3月15日	1名	

以上

平成29年度

社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔のまのまホームズ〕

平成29年度事業活動重点事項及び課題

(1) 入居者支援と職員体制

- 入居者の加齢に伴う生活支援状況の変化に職員体制が追いつかない。(にこにこ)
- 職員間での意思疎通に課題あり。入居者支援において独善的な視点の職員への対応に課題。(にこにこ どどんば ときわ)
- 入居者家族と職員の関係に課題。(にこにこ)
- 職員間での不和が退職につながる傾向。(にこにこ)
- 管理者への報告を怠る職員への対応。(にこにこ)

(2) 入居者家族について

- 高齢化がすすみ、親亡き後の生活に不安を感じられている方が多くなってきている。(ジャントニオ どどんば)

(3) 職員の質の向上

- 独善的な支援(常に自分が正しい。)に、陥っていることを気付かず正当化する職員への対応。(にこにこ)

(4) その他

- 30年5月末に「どどんば」廃止。6月よりホーム「たんご」(市内田喜野井)にて「どどんば」入居者は移動されます。(定員7名)

1.職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点2桁繰入

	管理者	サビ管	世話人	生活支援員	計
29年度当初	1	1	4 (4)	5 (3.7)	11 (7.7)
男性	1	1	2 (2)	3 (2.6)	7 (4.6)
女性			2 (2)	2 (1.1)	4 (3.1)
計	1	1	4 (4)	5 (3.7)	11 (7.7)
年度中増減					
男性					
女性				1 (0.4)	+1 (0.4)
計				1 (0.4)	+1 (0.4)
30年度当初	1	1	5 (5)	6 (4.1)	13 (9.1)

2.施設等利用者の状況

(1) 利用契約者

利用事業名	ときわ	ジャントニオ	どどんば	にこにこ	計
定員	5	7	4	5	22
29年度当初契約者数	5	6	4	5	20
年度内新規契約者数	0	0	0	0	0
年度内解約者数	0	0	0	2	2
年度末契約者数	5	6	4	3	18

(2) 利用率

利用事業名	ときわ	ジャントニオ	どどんば	にこにこ	計
年間延契約者数	1825	2190	1460	1389	6419
年間開所日数	365	365	365	365	365
年間延利用者数	1457	1954	1418	1348	6177
利用率(%)	80%	89%	97%	97%	96%

(3)利用者の年齢区分(平成29年4月1日時点)

年齢区分	20~25	26~30	31~40	41~50	51~60	61~	計
男性	3	2	5	3	1	1	15
女性				1	1	1	3
計	3	2	5	4	2	2	18
構成比率	16%	11%	27%	22%	11%	11%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成29年4月1日時点)

事業名(共同生活援助)

区分	2	3	4	5	6	計	平均区分
男性	2	0	8	3	2	15	4.7
女性	0	0	1	1	1	3	5
計	3	0	9	3	3	18	4.7
構成比率	16%	0%	50%	16%	16%		

(5)日中活動

	男性	女性	合計
生活介護	13	3	16
就労	1	0	1
その他	1	0	1
合計	15	3	18

(6)援護市町村区分

	男性	女性	合計
船橋市	13	3	16
市川市	1	0	1
千葉市	1	0	1
合計	15	3	18

3.保護者の状況

	男性	女性	合計
親	10		10
兄弟			
その他			8
なし	5	3	0
合計	15	3	18

#### 4.職員研修について

##### 外部研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考
グループホーム事業運営セミナー	支援職	H29年5月19日	職員1名	
グループホームにおける障害者虐待について	支援職	H30年2月20日	職員1名	

#### 5.事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
1	H29.5.16	近隣の郵便物を盗ってしまい、警察に通報される	ご本人への配慮不足、認識の甘さに関して反省し、ご本人を理解できるように対応します。	有	
2	H29.6.13	ベッドからの転落	ご本人の健康状態、その他への認識の甘さを反省し、注意深く見守ることを職員間で共有します。	有	
3	H29.6.26	椅子から落下し、怪我。	ご本人の行動面を把握し切れておらず、危険認識が甘かったため、職員間での情報共有と危険予知について話し合いを行います。	有	
4	H29.9.7	ホーム内で転倒、骨折	後遺症を伴う大怪我になってしまった結果を重く受け止め、ホーム内での危険認識に関する話し合いを継続的に行っていくことと、日々の支援に関する自己点検を欠かさず行います。	有	

平成29年度  
社会福祉法人さざんか会  
事業報告(統一版)

事業所名〔 野の花 〕

## 1. 平成29年度事業活動重点事項及び成果

### (1) 3年目を迎えて

平成29年9月1日3年目を迎えました。世話人も利用者も日々の生活を共に楽しく過ごしている様子が伺えます。年度当初は利用者5名でスタートしましたが途中1名退所、世話人も1名入れ替わりました。人の動きがあった1年でしたがその後安定した運営をする事ができ利用者さんも笑顔が多く過ごす事ができました。

### (2) 食事提供について

配食サービスの利用は引き続いておりますが、今年度は新たになずな工房のパンを食事時に提供してきました。利用者がまず喜んでくれておりなずな工房を利用している利用者さんにとっては自分で作ったパンやジャムが食卓に並ぶことで更に食事に対する楽しみが増えた事と感じます。

### (3) 安全面について

日中活動の場へ移動する際の交通安全に気を付ける事から始まり、入浴や掃除ありとあらゆる生活の場面で危険はあります。ヒヤリハットを活用し、業務日誌とは別にノートを用意して世話人の業務中での出来事など何気ない事も含めて書いてもらうようにしております。そこから直していけることも多くあり、私自身も未然に防げるように努めております。

### (4) 健康管理について

健康面については、今年度は定期通院が増えた年でもありました。現在も加療継続中ではありますが、今後通院が減る事は無いと考えますと、日頃から気を付けていく事で病気を未然に防ぐこともできると思います。食事面、生活面お風呂の入り方一つとっても健康を害する事もありますので改めて利用者と考える機会となりました。

### (5) 防災と設備について

高齢者、障害者問わずグループホームでの火災は新聞記事等で報道があり我々も他人事ではなく、自分の事として捉えていかなければなりません。自分たちで出来る事では、備蓄品を揃える事、有事に備えての避難訓練を繰り返し行う事で日頃の暮らしの中にも防災に対する意識を高めていく事を目的としていきます。

また、先日大地震が起きた熊本県では今なお避難所での暮らしを余儀なくされている方々います。6年前に起きた東日本大震災にしても然りです。「災いは忘れたころに起こる」とあるように常日頃から防災に対する意識は世話人、支援員共に持って仕事にあたりたいと思います。



## 2. 職員体制と人材確保(常勤換算数)※数点1位四捨五入

	管理者	サビ管等	支援員・世話 人・保育士等	看護師	調理員・栄養士	その他(運転士 等)	計
29年度当初	1	1	5				6
男子	1	1	1 ( 1 )	( )	( )	( )	2 ( 1 )
女子			( 3 )	( )	( )	( )	( 3 )
計	1	(1)	1 ( 4 )				2 (4)
年度中増減	0	0	0				0
男子			( )	( )	( )	( )	( )
女子			( )	( )	( )	( )	( )
計	1	1	1				3
29年度当初	1	1	1 ( 4 )	( )	( )	( )	3 ( 4 )

\*非常勤職員、臨時職員、パート職員については人数を( )内に別記する。

## 3. 施設等利用者の状況

### (1) 利用契約者

利用事業名	野の花				計
定員	5				5
29年度当初契約者数	5				5
年度内新規契約者数	0				0
年度内解約者数	1				1
年度末契約者数					

### (2) 利用率

利用事業名	野の花				計
年間延契約者数	5				5
年間開所日数	351				351
年間延利用者数	1460				1460
利用率	96.1%				96.1%

(3)利用者の年齢区分(平成30年3月31日時点)

年齢区分	20才未満	21~25	26~30	31~35	36~40	41~45
男子			1			1
女子						
計			1			1
構成比率			25%			25%

46~50	51~55	56~60	61~65	65歳以上	計	平均年齢
1		1			4	40.0
1		1			4	40.0
25%		25%			100%	

(4)利用者の障害程度(支援)区分(平成30年3月31日時点)

事業名( 共同介護 )

区分	3	4	5	6	計	平均区分
男子	1	2	1		4	4
女子						
計						
構成比率	25%	50%	25%		100%	

事業名( )

区分					計	平均区分
男子						
女子						
計						
構成比率						

(5)援護市町村区分

市町村区分	船橋市	市川市・習志野市・鎌ヶ谷市・八千代市	東庄町・銚子市・香取市・旭市	その他		計
				県内	県外	
男子			3		1	4
計			3		1	4

#### 4. 保護者の状況

保護者区分	親			兄弟姉妹	その他の親族	その他	身寄りなし	計
	両親	父のみ	母のみ					
男子利用者	1			2	1			4
女子利用者								
計								
平均年齢								
最高年齢								

#### 5. 職員研修について

##### ア、 法人事業所内研修

研修会名	対象者	実施日	参加者	備考

##### イ、 外部団体等主催研修への参加

主催団体名	研修会名	実施日	参加者	備考
全国GH学会	第14回GH全国大会	29年7月22~ 23日	1人	
千葉知協GH世話 人研修	支援員 世話人	29年9月11日	2人	
千葉県グループホ ーム学会	千葉県GH大会	29年12月9日	2人	
香取圏域GH	香取圏域GHな ごみ会	29年2月15日	2人	

#### 6. 事故の発生について \*ヒヤリハットを除く

NO	発生年月日	事故の内容	今後の対応	行政への届け出	備考
		今年度事故の報告は 無し			